令和4年度第3回袖ケ浦市立図書館協議会

1 開催日時 令和5年2月6日(月)午後2時開会

2 開催場所 中央図書館 2階 視聴覚ホール

3 出席委員

委員長	吉村 真理子	副委員長	星野 裕司
委 員	鈴木 大介	委 員	山田 真衣
委 員	菊地 育子	委 員	小林 君代
委 員	石井 喜美江	委 員	髙橋 和子
委 員	宮越 賢子	委 員	武井 隆文

欠席委員 なし

3分の2以上の委員が出席であり、袖ケ浦市立図書館協議会運営規則第3条 第2項により本協議会は成立とする。

4 出席職員

教育長	御園 朋夫	生涯学習課長	高浦 正充
中央図書館長	藤尾 善之	平川図書館長	中畑 浩治
中央図書館主幹 (奉仕班長)	堀野 仁美	中央図書館 庶務班長	芦田 敏宏
中央図書館 主査	上村 千恵		

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	3人
傍聴人数	0人

6 議 題

- (1) 正・副委員長の選出について
- (2) 令和4年度袖ケ浦市立図書館サービス状況の点検・評価について (第

1回)

- (3) 令和5年度図書館経営方針及び重点施策について
- (4) その他

7 報告

- (1) 袖ケ浦市電子図書館の利用状況と選定方針の変更について
- (2) 令和4年度秋のトショロ月間の実施結果について
- (3) その他

8 議事

議題(1)正・副委員長の選出について

事務局(芦田班長): 袖ケ浦市立図書館協議会運営規則第3条第1項の規定により、委員長が会議の議長となっていますが、正・副委員長が決定するまでの間、議事進行を中央図書館長の藤尾の方で進めさせていただきます。

議事進行(藤尾館長): それでは、正・副委員長が決定するまでの間、議事進行を務めさせていただきます。議題(1)「正・副委員長の選出について」、事務局から説明をお願いします。

事務局(芦田班長):図書館協議会について簡単に説明。

議事進行(藤尾館長): それでは、「袖ケ浦市立図書館協議会」第2条の規定により、正・副委員長を委員の互選により選出したいと思います。どなたかご意見ございますか?

鈴木委員:第18期と同様、前回委員長の吉村委員、前回副委員長の星野委員 に引き続きお願いすることが良いと思われますが、いかがでしょうか。

議事進行(藤尾館長): ただいま、鈴木委員から前回委員長の吉村委員、副委員長の星野委員に引き続きお願いする案が出されましたが、皆様いかがでしょうか。

各委員:全員、異議なしの声。

議事進行(藤尾館長):委員長は吉村委員、副委員長は星野委員が選出されま した。吉村委員長、星野副委員長は、前の委員長席、副委員長席にお移りくだ さい。

議事進行(藤尾館長):ここで吉村委員長、星野副委員長よりご挨拶を頂戴いたします。まず吉村委員長、よろしくお願いいたします。

(吉村委員長あいさつ)

議事進行(藤尾館長):続きまして、星野副委員長、よろしくお願いいたします。

(星野副委員長あいさつ)

議事進行(藤尾館長):正・副委員長が決定しましたので、議事進行役の任を 解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

吉村委員長:それでは改めまして議長を務めさせていただきます。議題(2)「令和4年度袖ケ浦市立図書館サービス状況の点検・評価について(第1回)」に入ります。事務局から説明をお願いします。

議題(2)令和4年度袖ケ浦市立図書館サービス状況の点検・評価について (第1回)

事務局(藤尾館長):「令和4年度袖ケ浦市立図書館サービス状況の点検・評価について(第1回)」について説明

吉村委員長: それではまず全体評価からサービス内容(1)について、ご意見を伺います。

髙橋委員:8ページのサービス評価指標⑩について、目標値を 4,000 件としているが今回の評価時点で達成できている。また図書館の開館中に眼鏡型のカメラを利用して実際に資料をみて対応するレファレンスなど、今度取り入れてもいいと思う。

事務局(藤尾館長):令和7年度の目標値として、令和3年度に第4次図書館サービス網計画を策定するにあたり、それまでの実績を考慮し4,000件としました。この時点では令和2年度のウェブ予約件数が3,262件でしたが、令和元年度までは3,000件を超えていませんでした。目標値を決める際には4,000件

でも高いのではという意見もありましたが、想像をはるかに上回る勢いで件数が増えたものです。上方修正しないかというご意見ですが、12月の段階で目標値を超えている指標もありますが、まだまだ達成度の低い指標も一方ではございます。令和7年度を目標としている計画でありますので、今のところ目標値を見直すことは考えておりません。令和8年度以降については後期計画を策定しますので、その段階で改めて目標値の見直しだけでなく、評価指標自体の追加や削除も検討したいと考えております。

吉村委員長:目標値の設定は難しいものですが、現時点では上方修正は考えていないということです。眼鏡型のカメラという話もありましたが、それについて何かご意見はありますか。

事務局(藤尾館長):図書館の電算システムはリース契約を行っており、令和6年12月にシステム更新を予定しております。次期のシステムの選定の際に新しい技術を取り入れた提案などされるものと考えております。

吉村委員長:ほかにいかがでしょうか?

宮越委員:8ページの⑥年間新規登録者数についてですが、新規登録の可能性があるのは小さなお子さんではないかと思います。私には4歳と小学校3年生の子どもがおりますが、子どもの読む絵本が上限の15冊では足らず家族4枚のカードを使って沢山借りている状態です。小さいお子さんがカードを作れるということについての周知が十分にされているのか。ブックスタートの際には周知を図っていたと思いますが、ブックスタート利用時はお子さんが小さく資料に目を通す、カードを作ろうという気持ちになれる時期ではなく、子どもが2歳や3歳になって図書館に足を運び15冊では足りないとなったときに児童書コーナーなどに貼り紙等してあると登録につながっていくような気がします。お子さんの登録がもっと増えていくきっかけ作りができるといいと思いました。最近は週末図書館に足を運ぶと若い保護者が増えていて、駅前の新興住宅地から足を運んでいるのを感じており、利用者数を増やすチャンスだと感じます。

星野副委員長:市民登録率の目標値が42%で現在が40%ということですが、袖ケ浦市で新規登録者の対象者となるのは出生者(540人位)、転入者(3,000人位)の3,500人位です。そういった中でどのようにして目標の42%に近づけていくのかというところが問題になってきます。40%前後の数字というのは県内でも4番目の高い数値であり、42%を目標値とすることがどのくらい大変なことかという点も併せて考えていくことが必要です。

吉村委員長:小さいお子さんの利用者登録について周知する機会はブックスタ

ートだとお話がありましたが、他にはどんな機会を捉えているのでしょうか。

事務局(堀野主幹): 宮越委員からお話がありましたとおり、4か月児教室で実施しているブックスタートの参加者に対して、案内と併せて利用登録の申込書も一緒に配布するという形でご案内しています。以前は会場で利用券を作成していましたが、現在はコロナ禍でそういった場を会場内に設けることは控えています。それ以外ですと市内の保育所の園児が定期的に図書館を利用しておりますので、その機会に来館する園児全員に対して利用券を発行しています。

宮越委員:図書館の利用は年長児からだったと思いますが。子どもが4か月位の時期には自分が利用券を持っていたので、子どもの利用券まで作ろうという余裕がなかったというような記憶があります。子どもがある程度大きくなり、子育てが落ち着いた頃に図書館からの案内を覚えていれば利用につながることもあると思いますが、今のアプローチでは登録までつなげるのは難しいような気がします。また色々な目標値があり、その達成に向け取り組んでいくことも重要ですが、それより沢山本を借りてゆったりした時間を過ごせるお母さんが増えたらいいなと感じています。

事務局(堀野主幹):児童室内に案内のポスター掲示を行う、職員から対象者への声掛けを行うなど積極的に取り組んで行きたいと思います。

菊地委員:今の利用者登録に関連して、WEB上で登録ができるような仕組み についてお考えはないでしょうか。

事務局(堀野主幹):現在利用登録をする際には本人の来館、利用申込書への記入、本人確認書類の提示をお願いしています。今お話しがあったとおり、WEBで仮の登録ができ、実際に来館した際に本人確認ができれば、登録がスムーズにいくと考えますが、現在のシステムにはそういった機能の搭載がありません。他の方法として、メールで仮の登録をいただくことなども考えられますが、誤送信やセキュリティ上の問題もでてきます。システム上の問題がクリアできれば次期更新時には検討していきます。

武井委員:マイナンバーカードに図書館カードの機能を入れてはどうかというような話もあるかと思いますが、ソフトをいれると維持管理費が発生します。マイナンバーカード自体に印鑑証明が取得出来る等の色々な機能が附帯されていく中で、それをいつも持ち歩いて図書館で本を借りる際に出すのかというのも多少の不安があります。電子化は便利なことではありますが、コストが発生したり、セキュリティ上の安全性の問題があったり、そういったことも含めて時間をかけた検討が必要だと思います。

星野副委員長:全体的に第4次図書館サービス網計画、子ども読書活動推進計画等にのっとって計画的に、段階的に進められているという印象を受けました。指標で目標に到達しているものもあるというところにもそれが見えます。特に感じたのは開架図書の4%の入れ替えです。実際には10%程度の図書を入れ替えると図書館が活性化される等と言われていますが、4%を受け入れて4%を除籍しているということは、8%の本が入れ替わっているということになります。それに対しての財政的な支援があり、図書館で本の入れ替えができているということで、新しい情報に触れる機会が袖ケ浦市には沢山あるということになります。また図書館は人に本を貸すことだけが目的ではありません。行政資料、郷土資料の整理とともに利用と保存というのが1番重要なところで、製本化、電子化等により保存し、その情報を行政に提供していくなど袖ケ浦市

吉村委員長:9ページに課題と今後の対応をまとめていただいていますが、電子図書館という新しい試みもありますが、当初想定していた10代~20代の利用者が思ったより少なかったと伺いました。その対応としてより幅広い世代に読まれる一般文芸書の比率を増やすというのが対策と考えてよろしいでしょうか。

の頭脳の一端を担っているということになります。これが有効的に活用される

よう、もっと周知を図ることを望んでいます。

事務局(堀野主幹):後ほど報告事項(1)でもご説明させていただくのですが、中高生向けの催しとして実施したおすすめ本のPOPの中で中高生が書いたPOPを拝見した際に、思ったよりもライトノベルのような分野ではなく一般文芸書を読んでいるという傾向が見えてきたこともあり、方針を変更することで、中高生を含む幅広い世代への利用が見込めるのではないかと考えております。

吉村委員長:レファレンスについても司書の方に気軽に声をかけて聞けるような雰囲気作り、以前にもお話ししたのですがエプロンに「気軽におたずねください」というような表示があると声がかけやすくなると思うので、そういったところも検討していただけると良いと思いました。

吉村委員長:それでは他になければ、サービス(2)に進めていきますがよろしいでしょうか。

宮越委員:先ほど司書の方に気軽に話しかけられる雰囲気というようなお話がありましたが、児童書コーナーのカウンターに司書さんが入られる時間が今はないのでしょうか。

事務局(堀野主幹): コロナの感染対策になりますが、小さいお子さんですと パーテーションを回り込んで近づいてしまう、距離が近くなりがちになってし まうため、職員の配置は控えているところです。

宮越委員:お子さん連れの利用者が増えているのは感じているところです。私は司書さんに何でも聞きにいけるタイプなのでおすすめの本など伺ったりできるのですが、そのご家庭のニーズに合わせて司書の方が力になって下さるということは、一歩踏み込みづらいと思っている人にとっては話しかけやすく、利用者に応じたサービスという意味でも図書館に通いやすい、また来たくなるような雰囲気ができるのではと感じています。

事務局(藤尾館長):コロナ前は、職員体制にも限りがあり土日のみでしたが、中央図書館の児童カウンターに職員を配置していました。現在は先ほどの説明のとおり控えておりますが、大人の方でもアクリル板やビニール幕越にカウンターに声をかけにくいような面があり、レファレンス件数の減少に影響している面もあるのではないかと思います。感染対策等の見直しが国で進んでおり、職員体制との絡みもありますが、感染状況やコロナの扱いが変わってきましたら土日や夏休み等は児童書コーナーに職員が配置できるよう検討いたします。またそれが難しい場合でも、積極的な声掛けなど、こちらから利用者へ近づいていけるよう考えてまいります。

鈴木委員:サービス内容(2)の記載に関しても、事細かに色々な利用者に配慮して考えられていると思います。乳幼児・幼児に対してですが、母親と子どもという前提で考えているようなところがあるように感じます。おひざにだっこも父親でもいいのだと思いますが、イメージが母親と子どもにカテゴライズして取り組まれているように感じます。学校現場にいると父親の感覚が進んできており、面談等実施しても父親の参加する率が高まってきていると感じます。ただ、学校の運動会や参観日などは父親も参加しやすいが、図書館で行うブックスタート等は知る機会も少なく、入りにくいような印象があります。検診なども母親が来ることが多く、父親への周知は難しい面がありますが、次の利用者となっていく潜在的な層であるとも感じます。家庭教育がなかなか進まないということで県が企業に対して研修を持ち込むということをやっていた時期がありました。良い事例であるかどうかはわかりませんが、「待つ」から「入る」といった動きの中で進めていくのも1つの考え方であると思います。父親の子育てに対するニーズは高まっています。

武井委員:デイジー図書については初めて知ったのですが、朗読CDをイメージすればいいのでしょうか。

事務局(藤尾館長): デイジー図書というのは視覚障がい者やディスレクシアなど活字を読むことが困難な方のために制作された、CD1枚に60時間分の録音ができる特別な規格のもので、使用するには専用のフリーソフトが必要になります。点字図書館が運営しているサピエ図書館という障がい者向けのデータベースがあり、袖ケ浦でも加入して、データベースからデイジー図書をCDやUSBにダウンロードして利用できる体制を整えています。視覚障がいのある方だけでなく、学習障害など読みに苦手さのある方でも利用することが可能です。図書館の朗読CD等とは違ってサピエ図書館の定める利用要件等があり、一般の方は利用できません。現在は障がい者支援課等で障がい者手帳交付の際に配布している案内にデイジー図書の案内を掲載してもらう等、周知を図っています。要件が緩和されて視覚障害だけでなく学習障害などの場合でも利用できるようになったので、令和3年度に要綱を作成し、今年度から学校への案内等を開始したところです。何件か問い合わせはあったのですが、利用までにはつながっていないのが現状です。

武井委員: YouTube でも昔の文学作品や子ども向けの物語などいろいろな分野の朗読を視聴することができます。ソフトも必要なくスマートフォンでも利用できます。健常の方でも高齢になって字を読むのが大変だったり、老眼で見えにくくなったりするので、聞く読書はとても有効だと思います。

吉村委員長:デイジー図書を目にする機会がないので、図書館協議会開催時に 実際にみせていただくことがあるといいと思いました。

事務局(藤尾館長):確かに、言葉の説明だけではピンとこないと思います。 多言語対応の電子絵本というものがあり、見た目はマルチメディアデイジーと 変わらないので、そちらを活用し、委員の皆さんにも見ていただく機会をつく りたいと思います。

髙橋委員:デイジー図書は内容的には年齢はどのくらいになるのでしょうか。

事務局(藤尾館長): リスト上では児童書から大人向けまで幅広い世代に向けたものがデイジー化されています。著作権者の許諾が必要になるため、出版された本全てというわけではありません。

髙橋委員:小学生レベルのものもあることを考えると、特別支援学級で利用できるのではないかと思いますが、アプローチはどのようにされていますか。

事務局(藤尾館長):13ページの今後の対応にもありますが、これまで小中学

校以外には直接のアプローチは行ってきませんでした。来年度は槙の実特別支援学校への案内もしたいと考えています。

髙橋委員: 各学校にある特別支援学級に対してはどうでしょうか。

星野副委員長:基本的に公立図書館は個人への貸出を対象としており、集団で利用するものではありません。もし朗読CDを学校で利用したいということであれば、学校の裁量の中で利用していくということになります。

髙橋委員:特別支援学級は個別に進度が違うので、そういった場合に利用できると良いのではと考えました。

吉村委員長:読書支援サービスをより周知していくと今後の対応にも記載がありますが、アウトリーチできている、ニーズがあるところにどんどん出ていっていると思いました。総合教育センターや児童発達支援施設、特別支援学校等、アプローチをしてニーズがあるかどうかはわかりませんが、こういったものがあるということを周知していくのは有効です。放課後デイサービス等への周知もしていけると良いのではないかと思いました。

星野副委員長:袖ケ浦市は乳幼児からシニアまで多彩なプログラムを持っていることをまずは評価したいと思います。おはなし会という言葉1つに統一されてしまいますが、その回数や頻度や対象者層、こういったものがとても良く準備されていると思います。苦言を申さなければいけないこととしては、まず多文化サービスについて、外国語資料として英語を母語とする本を購入したという報告がされていますが、これが本当に多文化サービスに繋がっているのかという点です。袖ケ浦市では今100人に1人が外国人というのが現状です。内容でみると多い順にベトナム人180人、フィリピン人が167人、中国人が123人、以下韓国、パキスタン、ネパール、タイ、ミャンマーと続きますが、この中に英語を母語としている国はありません。実際に英語の資料を購入することと、多文化サービスというのは全く別の問題であり、本当に多文化サービスに取り組んだのかということについては疑問が残ります。

また表記上の問題なのかもしれませんが、根形のすきすき絵本タイムについて計画的に実施された事業なのか試行で実施した事業なのかがわかりませんでした。そのため成果と取り組み状況について、試行的な実施で入れてあるのか常態化するために入れてあるのか読み取れない部分がありました。またサービス内容(1)(2)あたりですが、客観的ではない主観的な言葉で記載されている部分があります。どのように変化したのかわかりにくかったので、次回以降は数値をもとに客観的な評価ができるようにして頂ければと思います。

吉村委員長:それではサービス内容(3)にうつらせていただきます。

小林委員:次年度も絵本の初級講座は開催されるのでしょうか。

事務局(堀野主幹):おはなし会ボランティアの初級編は令和5年度に開催する予定はありません。計画では令和3年度に初級編で絵本の読み聞かせ、令和4年度に中級編で素話を習得してもらい、令和5年度はスキルアップ講座で手遊びやわらべうたを取り上げる予定です。次回絵本を扱う初級講座は、令和6年度開催の予定です。

小林委員:開催している講座の内容について、出席したことがないのでわからないのですが、初級編を終了して現場に入られる方とご一緒させていただいた際に疑問に思うような点も多かったので、どういった内容で指導されているのかお伺いしたいと思いました。

事務局(堀野主幹):初級編につきましては、まず図書館での読み聞かせはどういったものであるか、留意しなければならないことなどの理論的な部分を講義という形でお話しし、その後課題の絵本を実際に読み聞かせの形で読んでもらい、それに対して職員やすでに活動しているボランティアの方からアドバイスを個々にしていくという方式で進めております。

小林委員:お伺いした講義内容は素晴らしいと思いますが、実際現場にきていただくと疑問に思うことが沢山ありました。理論面でも実技面でも講義した内容が確実に伝わっているでしょうか。実際に1人ずつ前で読み聞かせは行っているのでしょうか。

事務局(堀野主幹):はい、一人一人が前にでて全員の前で読み聞かせを行い、それに対してその場で講師からアドバイスをするという形で進めておりました。

小林委員:現場にでていただくと私どもが習ってきた読み方とは全く違う読み方をなさって驚くことも多いです。受講者に理論、実技がきちんと伝えていただけたらよろしいかと思います。

事務局(堀野主幹):次回以降の改善点とさせていただきます。

武井委員:15ページのPOPとはどういった形で実施したものでしょうか。 中学校4校、高校1校が参加し、すごいと思いました。

事務局(堀野主幹): POPを書いて館内掲示するという形で実施しました。

現在1階に袖ヶ浦高校、昭和中学校の生徒の作品が展示されていますので、ご 覧いただきたいと思います。 POPを本と一緒に展示して貸出につなげていく という試みも行っています。

武井委員:とても良い試みだと思いました。せっかくなので、図書館でのイベント時に、この本についてPR等の発表、プレゼンするような場を設けることができると更に良いと思います。現在は本と個人の1対1の関係ですが、発表の場を設けることで子ども同士の交流も発生します。

吉村委員長:ビブリオバトルのようなものもありますし、今後検討していって いただけたらと思いました。

鈴木委員:本校もそうですが、各学校図書委員会が生徒会組織の中にあるので、 そこが受け手になっていると思います。ある程度は子どもの自治活動として行 われていて、校内でコンクールなども行っています。各学校で実態は違います が、色々なやり方があろうかと思います。今後踏み込んで相談いただくことも 可能ですし、学校の実態に応じてできる限りの協力はしていきたいと思ってお ります。

髙橋委員:参考資料の数値についてですが、令和2年からの3年間の数値が使用されています。全部がコロナ期間となり、コロナ前との比較ができなくなっているので、令和元年度が入った方が分かりやすいと思いました。

事務局(藤尾館長):次回は元年度をいれた資料を作成いたします。

星野副委員長:多様な学習機会の提供ということですが、最近新しくできた図書館ではコンセプトのトレンドがICT関連、コンピューター、情報関係になります。もう1点は「ついで」利用です。図書館単体ではなく、コンサートホールやスーパー等他の機能の施設と併設されていて、他の目的のついでに寄れるようになっており、コラボという面が機能してきていると思います。また子どもの作品展示等のイベントを企画するとそれを見に親がくる、ついでに図書館を利用するというような工夫とアイデアも盛んです。そういったことを良く工夫されていると数値から読み取りました。もう1点は学習機会の提供ですが、インターネットが主流になっていますが、画面から流れてくることばかりが情報ではありません。そのために私たちがどういった投げかけをするのか、本で調べるということも大切ですし、実際に見学したり体験したりすること、話を聞くことも大切で、色々な情報の様々な入手手段そういった場を提供していく、今まで図書館といえば活字が並んだ本が主流でしたがそれが変わってきているというところもこれから先見据えていく必要があり、そのキーとなる1つがコ

ラボになるのではないかと思いました。図書資料から離れにくい面もあると思いますが、例えば落語の公演を館内で行って、そこに落語のCDがあって本があって借りることができる、そういったつながりを出していくのも1つのきっかけになっていくと思いました。

また関係機関との連絡ということですが、もう1点はボランティアの研修です。 初級があってその次に中級がくる、色々なプログラムが用意されており受講者 にとってはステップアップができる、学んだことを利用できる機会があって上 達していくことができる、またそういった人たちが糧となって読書教育を進め ていくというところまでつながっていくのではないかと感じました。

吉村委員長:議題(3)については、サービス内容(1)から(3)までを改めて皆様の意見を反映させ重点背策として出していくということになりますので、かなり重複する点がでてきますが、いかがでしょうか。

議題(3)令和5年度図書館経営方針及び重点施策について

事務局(芦田班長):資料に基づいて説明。

星野副委員長:全体的には具体的な事業も盛り込まれていてわかりやすく、目 標もステップアップしていると思いました。まず電子図書館の件でターゲット を変更するとのことですが、これについては賛成です。以前もご説明いただき ましたが基本的には電子書籍には利用できる期間と回数に制限があり、利用が なければ経費の無駄遣いにもなります。そういったことが積み重なってもいけ ないので、借りられる人が借りられるものをということで、本当の意味での貸 本屋になってしまうのもいいのではないかと思っています。もう1点、障がい 者サービス内で宅配サービスがあげられていますが、私も以前担当したことが あり、現在の千葉市について調べてみたところ、1人が年間に40冊利用して いることがわかりました。個別によく話し合って料理や裁縫などの分野に絞る、 読み物のジャンルを絞る等、リクエストに応じるだけでなくこちらから提案し ていくことも検討してはどうかと考えます。利用者個々の考え方やニーズにあ った対応をしていくことも必要です。それによって、まだ伸びる余地があるよ うに感じています。また障がい者手帳所持者は市内に 1,800 人位いて、市民 50 人に1人は手帳を所持していることがわかります。この数値からみても実際に はもっと需要があるように感じます。

吉村委員長:ありがとうございました。これまで挙がったような話を今後の重 点施策に活かしていってもらえればと思います。皆さん活発なご意見ありがと うございました。 事務局(藤尾館長): それでは議題(2)につきましてはこの場でいただいた ご意見を整理し、次回の資料では図書館協議会の意見としてまとめさせていた だきます。また議題(3)については、この内容で承認されたものとして、教 育委員会に提出させていただきます。

事務局(芦田班長): 吉村委員長ありがとうございました。それでは報告事項にうつらせていただきます。

報告事項(1)袖ケ浦市電子図書館の利用状況と選定方針の変更について

報告事項(2)令和4年度秋のトショロ月間の実施結果について

報告事項(3)その他

- ・地域包括支援センターの体制強化に伴う健康福祉支援室業務の移管について
- ・地域のまちづくり施策推進に併せた公民館施設の活用方針について

閉会

令和4年度第3回袖ケ浦市立図書館協議会次第

令和5年2月6日(月) 午後2時から4時まで 袖ケ浦市立中央図書館 2階 視聴覚ホール

74	^		1 1		١.
+	_	交	f	^	·
	\Box	′ X ′′	ויו	ㅗ	١.

自己紹介

次第

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 議 題
 - (1)正・副委員長の選出について

: p.2

- (2) 令和4年度袖ケ浦市立図書館サービス状況の点検・評価について (第1回) : p.4
- (3) 令和5年度図書館経営方針及び重点施策について: p.19
- (4) その他
- 4 報告事項
 - (1) 袖ケ浦市電子図書館の利用状況と選定方針の変更について

: p.24

- (2) 令和4年度秋のトショロ月間の実施結果について: p.30
- (3) その他
- 5 閉 会

第19期袖ケ浦市立図書館協議会委員名簿

氏 名	選出区分	備考
サザき だいすけ 鈴木 大介	学校教育 蔵波中学校校長	再任 2期目
やまだ まい 山田 真衣	学校教育 袖ヶ浦高等学校実習助手	再任 3 期目
*メラー いくこ 菊地 育子	学校教育 平岡小学校学校司書	新任
こばやし きみよ 小林 君代	社会教育 おはなし会ボランティア	再任 2期目
れたい きみえ 石井 喜三江	社会教育 公民館運営審議会委員	再任 2期目
たかはしかずこ髙橋和子	家庭教育 ファミリーサポートセンター提供会員、家庭教師	再任 4期目
なきとこ 宮越 賢子	家庭教育 公募	新任
古村 真理子	学識経験 千葉敬愛短期大学副学長	再任 3 期目
星野 裕司	学識経験 元千葉市立美浜図書館館長	再任 2期目
武井 隆文	学識経験 元袖ケ浦市職員	新任

委員任期 令和4年12月1日から令和6年11月30日まで

議題(1)正・副委員長の選出について

<図書館協議会とは>

図書館協議会は、図書館法第14条で、図書館の運営に関し、館長の諮問に 応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる 機関であると規定されています。

袖ケ浦市の場合、学校教育・社会教育・家庭教育・学識経験の各分野から選出された10名の委員で構成されており、年間に3回(先進地視察研修を実施する年度においては2回)の会議を予定しています。

会議では、市民の代表として、また、選出分野ごとの専門的立場から、事務局が提案する議題・報告等について審議していただくとともに、図書館の運営やサービス等について意見を述べていただきます。

<参考法令>

〇図書館法

(図書館協議会)

- 第14条 公立図書館に図書館協議会を置くことができる。
- 2 図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする。
- 第15条 図書館協議会の委員は、当該図書館を設置する地方公共団体の教育 委員会が任命する。

〇袖ケ浦市立図書館設置条例

(図書館協議会)

- 第4条 図書館法第14条の規定により、袖ケ浦市立図書館協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- 2 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、袖ケ浦市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が任命する。
- 3 委員の定数は、10人以内とする。
- 4 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補 欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

〇袖ケ浦市立図書館協議会運営規則

(趣旨)

第1条 この規則は、袖ケ浦市立図書館設置条例第4条の規定により設置された袖ケ浦市立図書館協議会(以下「協議会」という。)に関し、必要な事項を 定めるものとする。

(委員長等)

- 第2条 協議会に委員長及び副委員長各1名を置く。
- 2 委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。
- 3 委員長は会務を総理し、協議会を代表する。
- 4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代理する。

(会議)

- 第3条 協議会の会議は委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。
- 2 会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 会議の議決は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決すると ころによる。

議題(2)令和4年度袖ケ浦市立図書館サービス状況点検・評価について (第1回)

"図書館はサービス水準の向上を図るため、サービスの実施状況について点検及び評価を行う際の評価指標及び目標年度を令和7年度とする数値目標を設定し、その達成状況等について、年度ごとに点検及び評価を行います。"

(「袖ケ浦市第4次図書館サービス網計画」3-5サービス評価指標)

図書館法は、第7条の3及び第7条の4において、図書館が自らの運営状況について評価を行い、その結果に基づき、運営の改善のための必要な措置を講じ、運営状況に関する情報を地域住民等へ積極的に提供するよう努めなければならないことを規定している。

袖ケ浦市立図書館は、平成23年度に袖ケ浦市第3次図書館サービス網計画を 策定し、その後、地域住民の代表である図書館協議会の協力を得ながら、図書館 サービスの実施状況について、年度ごとに点検・評価を行い公表してきた。

第3次図書館サービス網計画の計画期間は令和2年度で満了し、袖ケ浦市立図書館は令和3年度を初年度とする第4次図書館サービス網計画を新たに策定した。令和3年度以降のサービス実施状況については、第4次図書館サービス網計画に基づいて点検・評価を行っている。

なお、第4次図書館サービス網計画の計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年であるが、図書館を取り巻く環境の変化等に柔軟に対応するため、計画期間を前期と後期の各5年に分けており、サービス評価指標及び参考指標と数値目標については、前期の最終年度である令和7年度を目標年次としている。

令和4年度袖ケ浦市立図書館サービス状況点検・評価 今後のスケジュール

時 期	作 業 内 容
1月まで	・令和4年度の取組を、第4次図書館サービス網計画のサービ
	ス内容(1)(2)(3)のシートに分けて点検する。
2月~3月	・【令和4年度第3回図書館協議会】図書館協議会委員の意見
	を伺う。
4月~5月	・シートに記載した点検内容の追加及び修正を行うとともに、
	確定した令和4年度の実績数値によって、サービス評価指標
	の達成度について評価する。
6月~7月	・【令和5年度第1回図書館協議会】図書館協議会委員の意見
	を伺う。(前回の追加及び修正)
8月	・教育部課長会議及び教育委員会で報告する。
9月上旬	・図書館のホームページを通じて公表する。

令和4年度袖ケ浦市立図書館サービス状況点検・評価の評価方法

袖ケ浦市第4次図書館サービス網計画において、数値目標を設定した指標は、サービス内容 (1)に対応するサービス評価指標 (①~⑪) と、サービス内容 (2) (3)に対応する参考指標 (⑫~⑫) とで構成されている。これらの指標のうち、参考指標については主に活動指標(※1)であることから評価の対象とせず、成果指標(※2)が主である①~⑪のサービス評価指標の達成度に基づいて評価するものとする。

なお、新型コロナウイルス感染症への対応については、政府の対処方針や日本 図書館協会のガイドライン等を参考にしながら図書館サービスの遂行に努めた が、感染予防対策を講じることが困難なサービスや事業については停止や制限・ 縮小等の措置を取るなど、図書館運営に対する新型コロナウイルスの影響が未だ にあることを考慮し、令和4年度の点検・評価については以下の方法で行う。

- ※1 活動指標:目標を達成するための手段(事業の進め方・やり方)の大きさを表す指標(アウトプット指標)。
- ※2 成果指標:事務事業を行うことによって対象にどれだけの効果を与えることができたかを表す指標(アウトカム指標)。

1 点検

令和4年度に行った図書館サービスの取組を、第4次図書館サービス網計画のサービス内容(1)(2)(3)のシートに分け、「取組内容」「指標の実績値」「成果・効果」「課題」「今後の対応」を記載する。

※「指標の実績値」については、今回の資料では令和4年12月までの数値を 記載している。年度が完了した後に、改めて令和3年度実績値を入力する。

2 図書館協議会からの意見

地域住民の代表である図書館協議会委員からの意見をサービス内容ごとに伺い、サービス内容(1)(2)(3)のシートに「図書館協議会からの意見」としてまとめる。

- 3 評価(令和5年度第1回図書館協議会で行う。)
 - (1) サービス評価指標①~⑪の目標値に対する達成度を4段階で表示する。
 - ◎:目標値に対して100%以上の達成率
 - ○:目標値に対して80%以上100%未満の達成率
 - △:目標値に対して60%以上80%未満の達成率
 - ×:目標値に対して60%未満の達成率
 - ※ただし、令和4年度の取組において、新型コロナウイルス感染症への対応により事業の実施に多大な影響があり、施策指標の数値が目標値を達成しなかった場合は、 (\bigcirc) 、 (\triangle) 、 (\times) と表記する。

(2) サービス評価指標①~⑪の達成度◎を30点、○を20点、△を10点、×を0点として採点し、平均値を全体評価としてA・B・Cの3段階で表示する。

A:施策の成果が十分に図られている。24点以上(80%以上)

B:施策の効果が図られ、一定の成果があった。

18点以上24点未満(60%以上80%未満)

C:施策の成果が十分に図られているとは言えず改善を要する。

18点未満(60%未満)

※ただし、令和4年度の取組において、新型コロナウイルス感染症への対応により事業の実施に多大な影響があったものは、(A)、(B)、(C)と表記する。

袖ケ浦市第4次図書館サービス網計画 サービス評価指標達成度及び全体評価

※R4 実績値、達成度及び全体評価は、年度が完了し実績値が確定した後に入力し、令和5年度第1回図書館協議会で評価する。

サービス評価指標	前期計画 目標値(R7)	実績値 (R4)	達成率	達成度	点数
①市民1人当たりの所蔵 図書冊数	11.3 冊				
②袖ケ浦市関係郷土行 政資料の年間受入冊数	300 冊				
③年間個人貸出利用者数	149,000 人				
④年間個人貸出資料点数	550,000 点				
⑤市民1人当たりの年間 個人貸出資料点数	8.5 点				
⑥年間市民新規登録者数	1,400 人				
⑦市民登録率	42%				
⑧年間リクエスト処理件数	55,000 件				
⑨年間レファレンス処理 件数	1,200 件				
⑩1か月当たりのウェブ 予約受付件数	4,000 件				
⑪来館者満足度	80%				
Δ #	=17 /34			合計点	
全体	評価			平均点	

サービス内容(1)「資料及び情報の収集、提供等」取組状況シート

下線部は令和4年12月末実績

取組内容(「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続)

① 図書館資料の収集

- ・「袖ケ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ケ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、新刊図書を中心に購入し、全館の開架資料 317,074 冊に対して 9,166 冊を受入(うち購入 8,466 冊) し、開架書架の約 2.9%を更新した。
- ・寄贈図書の受入れを積極的に行い、<u>676</u>冊(一般書 <u>663</u>冊(うち郷土資料 <u>213</u>冊、一般用 <u>463</u>冊)、児童書 13 冊) を受け入れた。
- ・行政資料については年度当初に市役所内に広く寄贈を呼び掛け、データのみで公表した資料は図書館で製本して受け入れしたほか、電子資料としても保存することとした。図書館で製本した袖ケ浦市関係郷土行政資料 51 タイトル、118 冊。
- ☆平川図書館の小説の書架について、一番下の棚を空けて高齢の利用者でも本を探しやすいよ うに配慮した。

②貸出サービス

- ☆幅広い年代に対して図書館の豊富な資料を紹介する取組として、特設コーナー等において市民の生活課題の解決に資するテーマを取り上げて積極的に提供した。6月と9月にはミニ特設コーナー(6月「千葉を知ろう」、9月「自殺予防週間関連ミニコーナー」)を設置し、多くの貸出があった。また、平川図書館では蔵書内容の特性を活かし、独自のテーマで展示する月を設けた。
- ・webOPAC (インターネット上でアクセスできる蔵書目録)上で図書館おすすめの「ビジネス書」「自殺予防週間関連」「男女共同参画社会」関連図書リスト」等を更新したほか、関心が高いと思われるNHKの大河ドラマに合わせたテーマなどを取り上げた。
- ・男女共同参画週間 (6/23~6/29) に合わせ、6月の特設コーナー「共に生きる」で関連図書を紹介したほか、司書が選定した令和4年度版「男女共同参画社会図書リスト」を作成し、図書館(中央・長浦・平川図書館)だけでなく市民協働推進課でも配布した。
- ☆特設コーナーとは別に、時事的なテーマのおすすめ図書を紹介する取組として中央図書館で4月にウクライナ戦争関連図書コーナーを設置した。また、長浦おかのうえ図書館のカウンター前では時機に合わせたテーマのおすすめ図書を紹介するコーナーを年間に4つのテーマで設置した。
- ・映画会、文芸講座など読書普及事業の開催時に関連図書を紹介したほか、講座「相続財産どこからどこまで?」の開催に合わせ、長浦おかのうえ図書館のカウンター前で「「シニアライフをたのしむ」というテーマで展示・貸出を行った。また、秋のトショロ月間の企画として、展示・貸出「図書館で楽しむ日本の美・世界の美」を長浦おかのうえ図書館のカウンター前で行った。
- ・図書館ホームページに図書館員の個性を生かしたテーマで「図書館員のおすすめ」を2か月ごとに掲載した。
- ・「若い人に贈る図書館お薦めの20冊」の図書リストを改訂して図書館内で配布したほか、館内の特設コーナーやwebOPACの「図書館おすすめ」、ツイッターでも紹介した。
- ・平岡公民館に設置している中央・長浦・平川の雑誌のバックナンバーのタイトルを見直し、より 利用者の利用者のニーズに応じたものに変更し、貸出の増につなげた。

- ・スタンプラリー、本のおたのしみ袋、えほんのふくぶくろなど、貸出増につながる事業や企画を 年間を通じて推進した。
- ・長浦・平川における児童書の利用促進を図るため、対象年齢別に「すぐに借りて帰りたい人 のためのおすすめ絵本セット」を作成し、特に長浦では小学生向けのセットが好評だった。
- ・保育所がコロナ禍で令和2年度以降中止していた集団での来館を再開し、11月以降、各地区の保育所の子どもたちが定期的に図書館・図書室を訪れ本を借りるようになった。
- ☆図書館を直接利用しない市民にも図書館の資料を広く提供するため、団体貸出サービスについて、新たに市内デイサービス提供事業者へ利用案内を行った。
- ★市民の読書環境充実と、図書館の利用機会の拡大を図り、8月から図書館を利用する機会が 少ない勤労世代や学生を主な対象に、来館しなくても利用できる電子図書館サービスを開 始した。提供コンテンツ数234点、のべ貸出冊数471点

③レファレンス・情報提供サービス

- ・市民の課題解決を支援するため、インターネットやデータベース等も活用し、利用者の求めに応じて資料及び情報の提供・紹介等を行うレファレンスサービスを推進した。
- ・袖ケ浦市立図書館の所蔵資料では解決できないレファレンスについて、県立図書館へのレファ レンス依頼を行い、利用者の課題解決に努めた。
- ☆パスファインダー (調べ方案内) は大人向けに「『新聞記事の探し方』〜調べ方案内〜」改訂版、「相続・遺言」を、児童向けには「仕事・職業について」をそれぞれ作成し、図書館のホームページに掲載した。紙の資料は全館で配布した他、テーマに合わせ、郷土博物館など社会教育施設や高齢者支援課等関係機関にも配布して活用を図った。
- ・月替わりで時機をとらえた共通のテーマで関連図書を紹介する特設コーナーで、SDGsの目標に対応したテーマを積極的に取り上げ、17の目標のうち8つの目標について紹介した。また、 秋のトショロ月間においてもSDGsに関する啓発を図った。
- ・市役所職員に向けに毎月、袖ケ浦市関連の新聞記事見出し一覧を公開するとともに、レファレンスサービスの周知を行った。
- ☆図書館だよりでレファレンスの事例紹介を行うとともに中央図書館レファレンスコーナーの 掲示物のリニューアルを行い、レファレンスに関する周知を図った。

サービス評価指標	前期計画 目標値(R7)	R4 実績値 (R4. 12 月末)	達成度
①市民一人当たりの所蔵図書冊数	11.3 冊	11.0 ∰	
②袖ケ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数	300 冊	206 冊	
③年間個人貸出利用者数	149,000 人	95,771 人	
④年間個人貸出資料点数	550,000 点	399,612 点	
⑤市民1人当たりの年間個人貸出資料点数	8.5点	6.1点	
⑥年間市民新規登録者数	1,400人	987 人	
⑦市民登録率	42%	40.0%	
⑧年間リクエスト処理件数	55,000 件	51,399件	
⑨年間レファレンス処理件数	1,200件	699 件	
⑩1か月当たりのウェブ予約受付件数	4,000件	4,274.8件	
⑪来館者満足度	80%	74.0%	

成果・効果

- ・特設コーナーだけでなく、webOPACや読書普及事業など様々な機会を通じて、図書館職員の選んだおすすめ図書を紹介するなど利用増につながる取組を積極的に行ったことにより個人貸出利用者数、個人貸出資料点数ともに増加した。
- ・電子図書館を開設したことにより市民の新規登録者が増加し、開館中に図書館へ足を運ぶことが難しい学生や勤労世代へ利用機会の拡大を図ることができた。

課題

- ・レファレンス処理件数が、回復傾向にはあるもののコロナ禍前の令和元年度の水準に満たないことから、図書館から積極的にPRしていく必要がある。
- ・電子図書館の主な利用者層は現状では 40~60 代であり、当初想定していた 10~20 代の利用が少ないことから今後の利用促進について検討する必要がある。

今後の対応

- ・図書館だよりでレファレンスの事例紹介を行う等、レファレンスサービスの周知活動を行う とともに、感染状況を考慮しながらフロアワークでの声掛けや中央図書館児童カウンターへ の職員配置の再開を検討し、レファレンスサービスの向上に努める。
- ・電子図書館がより多くの市民に利用されるように、図書館ホームページ(トップページ)に 電子図書館のバナーを作成し、容易にアクセスできるようにするとともに、電子書籍の小説 について、より幅広い世代に読まれる一般文芸書の比率を増やすなど選定方針を変更する。

図書館協議会の意見

サービス内容(2)「利用者に応じたサービス」取組状況シート

参考指標 <u>下線部</u>は令和 4 年 12 月末実績

取組内容(「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続)

①乳幼児と保護者に対するサービス

- ☆ 0 歳からの乳幼児を対象とする事業は感染予防対策を講じることが困難なため令和 2 年 4 月以降中止していたが、国の規制緩和の動向を受けて実施方法を工夫し、夏と秋のトショロ月間内のイベントとして「すきすき絵本タイム」を根形公民館図書室で開催した。
- ・家庭における読書活動を推進するため、保健センターと中央図書館における「図書館でブックスタート」を毎月1回ずつ実施した。配布率53.9%。
- ☆ブックスタートで配布するアドバイスブックの多言語版及び多言語絵本の紹介チラシを用意 し、日本語を母語としない保護者が参加しやすいように整備するとともに若い世代が多いた め、市の公式LINEなどのSNSを利用し、「ブックスタート」について知ってもらう機会 を作った。
- ☆「図書館でブックスタート」は通常第3火曜日に開催しているが、平日に都合のつかない方 の参加を考慮し、夏のトショロ月間内の日曜日に試行開催した。
- ・コロナ禍後は保健センターで開催する4か月児教室でのブックスタートではおすすめ絵本・ 育児本の紹介を中止していたが、4か月児教室が予約制で定員が少なくなり密になる可能性 がなくなったことから再開した。
- ☆ 0歳からの「おひざにだっこのおはなし会」を感染症対策を講じて試行開催した。また、マスク着用ができることを条件に3歳以上の児童を対象とする「えほんのひろば」を中央図書館で開催したところ好評かつニーズが高いため、12月以降は長浦、平川でも開催し、毎月いずれかの館で1回は実施することとした。
- ・中央、長浦おかのうえ図書館で「子どもイベント」として「えほんのひろば」に対象年齢を あわせた「子ども映画会」を同日に開催し、相乗効果により参加者が増えた。
- ・感染予防対策を講じながら、幼稚園や保育所、子育て支援施設等への出張おはなし会を行った。
- ・対象年齢別のおすすめ図書リストの発行と図書館ホームページへの掲載を行ったほか、児童 室で季節にあわせた様々なテーマでおすすめ図書を展示し適宜ツイッターで周知した。
- ☆「子どもの本の講座」を開催し、お話を聞く楽しさやお話し選び、語るポイントなどに関す る講義を実演も交えて行っていただき好評を得た。
- ★WEB上で「図書館でブックスタート」「すきすき絵本タイム」「おひざにだっこのおはなし会」「えほんのひろば」「おはなし会」の申し込みができるように申し込みフォームを整備した。ブックスタートについては、健康推進課で新生児訪問時などに配布しているチラシにもQRコードを記載して周知した。
- ・夏のトショロ月間では子どもたちが読書に関心を持つきっかけとなるように「お題の本 D E BINGO!!」(平川)や「トショロからの挑戦状」(根形・平岡)を実施し、秋のトショロ月間では子どもたちと本との新しい出会いにつながるように、「本のおみくじ」(平川・根形・平岡)など、絵本を紹介する取組を行った。

② 児童・青少年に対するサービス

・感染予防対策を講じながら、館内おはなし会を定期的に開催したほか、保育所・小学校・学童保育等への出張おはなし会を実施した。おはなし会等実施回数合計 371回

- ☆夏のトショロ月間において、新たな企画として中央図書館では小学校中学年から中学生向けに「ちょっぴりながいおはなし会」、長浦おかのうえ図書館では「英語でおはなし会!を開催し、いずれも好評を得た。また、平川図書館ではボランティアを講師に、おはなし会とコラボした「みんなでたのしいぬりえ教室」を開催し、講座終了後カウンターでオリジナルのトショロのぬりえの配布と展示を行ったところ、多くの児童の参加があった。
- ・年齢別おすすめ図書リストを2回作成し、図書館ホームページへの掲載と館内だけでなく学校や保育所等へ配布した。各館の児童室では、テーマを決めた定期的なおすすめ図書の紹介展示を行った。
- ・夏のトショロ月間期間内に設けた夏休みの課題支援の一環で、調べ学習や読書感想文、自由 研究についての問い合わせに多数対応したほか、読書感想文におすすめの図書のリストや パスファインダーを作成し館内での配布および貸出を行った。また、ツイッターでの周知、 図書館ホームページへの掲載を行うなど積極的に支援した。
- ・青少年の図書利用を促進するため、中学生向けの「ジュニアコーナー」や高校生向けの「青 少年コーナー」の充実を図ったほか、昨年度に引き続き中学生・高校生向けに「イチオシ本 のPOPを書こう!」を企画し、市内の中学校4校、高校1校から536人の参加があった。
- ・子どもが読書に関心を持つきっかけとなるイベントとして、こどもの読書週間記念行事を開催 し、先行してスタンプラリーの台紙を配布するなど積極的にPRし、参加者や児童書の貸出 増につながった。

③ 成人に対するサービス

- ・月替わりでおすすめ図書を紹介する特設コーナーにおいて、時節柄関心の高いテーマを取り上げ、図書館のwebOPACの「図書館おすすめ」にもリストを掲載し、ホームページのお知らせ、ツイッターでも広報した。
- ・会議資料の作り方、起業、転職、経営に関する本など、働く上で役立つビジネス資料を積極的に収集し、さらに、図書館のwebOPACの「図書館おすすめ」のリストに掲載している「ビジネス書(2022年発行)」を2回更新し、図書館で購入した新刊ビジネス書の紹介に努めた。

④ 高齢者に対するサービス

- ・地域の高齢化が進行する中で、市民の関心が高く、常に新しい情報が求められる社会福祉と 医学関連の図書を積極的に収集した。社会福祉の分野の図書(一般書)を全館で 75 冊収集 し、同分野の全開架図書 2,160 冊の約 3.5%を更新したほか、医学・薬学の分野の図書を全 館で 436 冊収集し、同分野の全開架図書 10,125 冊の約 4.3%を更新した。
- ・高齢者が利用しやすい資料として、大活字本 134 冊 (59 タイトル) や朗読 CD_9 点 (9 タイトル) を購入した。webOPACの「図書館おすすめ」に「大活字本リスト 小説・2021 年から発行」のリストを更新し、資料の紹介に努めた。
- ・秋のトショロ月間の期間には、長浦おかのうえ図書館で「相続財産どこからどこまで?」を を開催し、好評を得た。これに関連して、カウンター前で「シニアライフを楽しむ」という テーマでおすすめ図書の紹介展示を行った。
- ☆高齢者が読書に親しめる大活字本や朗読CDについてPRするポスターを病院やスーパーマーケットにも掲示依頼し、広く周知を図った。

⑤図書館利用に障がいのある人に対するサービス

- ・心身の障がいや長期のケガ、病気等により図書館への来館が困難な市民を対象に、依頼に応じて図書館資料を届ける宅配サービスを実施した。宅配による貸出89冊。
- ・社会福祉協議会を通じて中川・富岡地区の民生委員へ宅配サービス利用案内を送付して周知に 努めた。
- ・学習障がい等により読みに苦手さのある子どもへ読書支援を行うため、図書流通システムを 介して行うデイジー図書(※1)の提供について、利用を促すため新たに申込の書式を作成 し、実施要領や申請書、案内等をわかりやすいものに改め、学校への周知を図った。

⑥多文化サービス

- ・外国語(英語)の図書 14冊(一般書 11冊、児童書 3冊)を購入し、webOPACの「図書館おすすめ」にも「令和4年度受け入れ洋書リストを掲載して資料の紹介に努めた。
- ・日本語を母語としない子どもへの読書支援について、図書流通システムを介して多言語対応 の電子絵本(※2)の利用を促すために、新たに申込の書式を作成し、実施要領や申請書を わかりやすいものに改め、学校への周知を図った。
- ☆外国語資料を活用した取組として、夏のトショロ月間の中で「英語でおはなし会!」を2回 開催し、通常のおはなし会ではあまり見られない小学3、4年生の参加もあり好評だった。 あわせて、会場に洋書絵本を展示し、外国語資料の紹介に努めた。
- ★外国語図書コーナーのない長浦おかのうえ図書館、平川図書館、根形公民館図書室で外国語 の絵本を日本語訳の絵本と並べて紹介展示し、貸出の機会を設けた。

参考指標	前期計画 目標値(R7)	R4 実績値 (R4. 12 月末)	達成度
②ブックスタートの年間配布率	80%	53.9%	
⑬こどもの読書週間記念行事の参加者数	900 人	1,064人	
組おはなし会の年間実施回数	480 回	371 回	
⑤子ども向けお薦め本リストの年間発行回数	6 回	8 回	
⑩成人向けお薦め本コーナーの年間企画数	12 件	21 件	
⑪大活字本の年間貸出冊数	4,000 ∰	3, 331 冊	
⑱宅配による年間貸出資料点数	330 点	89 点	

成果・効果

- ・感染予防対策を講じたうえで乳幼児向けに「ブックスタート」「すきすき絵本タイム」「おひざにだっこのおはなし会」「えほんのひろば」を行ったほか、小学校中学年から中学生向けには「ちょっぴりながいおはなし会」を実施するなど、より幅広い年代に対して子どもの発達段階に応じた読書活動を推進することができた。
- ・WEB上でイベントの申し込みができるように申し込みフォームを整備し、利便性を図った ことにより参加者の増につながった。
- ・大活字本と朗読CDについて、病院やスーパーマーケット等図書館以外の場所にもポスター を掲示するなど積極的なPRを行い、大活字本の年間貸出冊数が増えた。

課題

- ・読みに障がいのある子どもを対象とする読書支援サービスの体制を整備したが、実際の利用 に結びついていない。
- ・宅配サービスについては、新型コロナウイルスの影響と利用者個々の事情により大幅に利用 が減少した。

今後の対応

- ・読書支援サービスについて、総合教育センターと連携して学校への周知に努めるとともに、 児童発達支援施設や特別支援学校などの施設に対しても、デイジー図書の貸出等の周知を図 る。
- ・宅配サービスについて、袖ケ浦市心身障害者(児)福祉会等の当事者団体へも案内を送るなど周知の拡大を図るとともに、登録している利用者各々の状況を確認し、きめ細かな対応を行う。また、宅配サービスの対象となる来館困難者について、要件の緩和を検討する。

図書館協議会の意見

- ※1 デイジー図書:デイジー(DAISY)は Digital Accessible Information System の略。視覚障がいなどにより活字の読みが困難な人のために製作されるデジタル図書の国際標準規格で、CD-R1枚に約60時間の録音ができるほか、章や見出し、ページごとに聞きたい場所へ移動することができる等の機能がある。音声データと目次・見出し情報等を記録した「音声デイジー」、文字や画像が含まれている「マルチメディアデイジー」などがあり、専用の再生機又は再生用ソフトウエアをダウンロードしたパソコンで聞くことができる。
- ※2 **多言語対応の電子絵本**:袖ケ浦市立図書館で提供するのは「多言語絵本の会 RAINBOW」から 寄贈された電子図書 (CD-R) で、日本語と外国語による音声読み上げ、読んでいるところ が画面上でハイライトされるなどデイジー図書と同様の機能があるが、専用の再生ソフトを必 要とせずパソコンで視聴できる。

サービス内容(3)「多様な学習機会の提供」取組状況シート

取組内容(「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続)

①学校との連携

・学校の読書や調べ学習を支援するため、市内の小中学校からの依頼に応じて図書流通システムにより 2,569 冊の団体貸出を行ったほか、学校貸出用利用券により開架資料 688 冊を貸出した。学校図書館への貸出冊数合計 3,257 冊。

下線部は令和4年12月末実績

- ・中央図書館内で昭和小児童による授業の成果物の展示を行ったほか、夏のトショロ月間では 中央図書館で昭和中学校図書委員会のおすすめ図書展示、長浦おかのうえ図書館で袖ヶ浦高 校図書委員による「袖高とコラボ!親子いっしょのおはなし会」、蔵波中学校美術部の作品展 示を行った。
- ・市内の中学校・高校と連携して「イチオシ本のPOPを書こう!」を実施し、中学校4校、 高校1校の計5校から536人の参加があった。
- ・昭和小2年生、蔵波小2年生のまち探検の受け入れを行った。

① 関係機関との連携

- ・市民会館・平川公民館合同開催の乳幼児家庭教育学級(うたたねハッピーくらぶ)において 読み聞かせと図書館活用法紹介講座「絵本の読み聞かせ&図書館を活用しよう」を行った際 に図書館から講師を派遣した。
- ・郷土博物館との連携事業として中央図書館で「〜郷土博物館連携展示〜富士山」の資料展示を行い、郷土博物館から展示物を借用し図書館資料とともに展示した。また、郷土博物館に図書館展示のPR用掲示物を掲示依頼し、図書館の仕様展示内でも郷土博物館の展示のPR及び市民学芸員についての紹介も掲示することで相乗効果がもたらされるよう工夫した。
- ・市民会館がシニアセミナーを中央図書館で開催した際に、関係資料の展示・貸出を行ったほか、平岡公民館の国際理解セミナーへ関係資料を提供した。
- ・市役所の関係課からの問い合わせに応じて、業務に必要な資料や情報を調査し提供した。
- ・男女共同参画週間(6月23日~29日)の時期に「図書館おすすめ男女共同参画社会関連図書 リスト」を作成し、図書館・図書室5館のほか、市民協働推進課へも配布した。

② ボランティア活動等の推進

- ・おはなし会ボランティア養成講座中級編を開催し、令和3年度に初級編を受講して「絵本の 読み聞かせボランティア」に新規登録した14名のうち13名が受講した。(おはなし会ボラン ティアとしての登録の意思を今後確認する。)
- ・子どもの本の講座を「お話のたのしさをこどもたちに」というテーマでおはなし会ボランティアスキルアップ講座とかねて開催し、おはなし会ボランティア及び絵本の読み聞かせボランティアの資質と技能向上を図った。
- ・おはなし会やブックスタート(すきすき絵本タイム含む)、映画会、資料展示、工作など市民 ボランティアとの連携により、読書普及事業を推進した。
- ・夏のトショロ月間や秋のトショロ月間等の大規模イベントにおいて、社会教育推進員の企画・ 立案による催しを実施した。
- ・秋のトショロ月間では図書館登録サークルによる成果発表の場を設け、俳句・短歌作品や人 形劇の人形作品等の展示をするとともに、「大人のためのお話し会」や朗読発表会を行い、サ

- ークル活動の活性化を図った。また、図書館で所蔵する関連図書の紹介もあわせて行った。
- ・平岡公民館シニアセミナーの講座で映画作品を鑑賞する際に、図書館の映画会ボランティア が上映前の作品解説を行った。

③ 図書館からの情報発信

- ☆図書館が広く市民に活用されるために、市の広報紙や公式LINE、図書館のホームページ、 ツイッターやメールマガジン、図書館だより等様々な媒体を活用して、図書館の資料や読書 普及事業等について積極的な情報発信を行った。また、市のインスタグラムでも図書館の情報を紹介した。
- ・ホームページの「特設コーナー」「おすすめ図書」「新刊図書」など図書館資料に関するコンテンツを更新した際に、画像付きで掲載して周知を図った。また、読書普及事業の実施状況についてもフォトニュースやツイッターを通じて積極的にPRしたほか、リンク集への新たなリンク先追加など、ホームページの内容を充実させた。
- ★2年に一度行っている「利用者アンケート」の名称を「図書館の利用に関するアンケート」と改め、「図書館を利用している方を対象とした図書館の利用に関するアンケート」と「図書館を利用したことのない方、ここ数年利用していない方を対象にしたアンケート」の2種類に分けて実施した(7/22~8/11)。また、今回より図書館を利用している方を対象としたアンケートは従来の紙以外にWEBでも回答可能とし、図書館を利用したことのない方、ここ数年利用していない方を対象にしたアンケートをWEBのみで新たに行った。

参考指標	前期計画 目標值(R7)	R4 実績値 (R4. 12 月末)	達成度
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3,500 ∰	3, 257 ∰	
②学校との連携による図書館内掲示や催し物の年間事業数	7 回	7 回	
②公民館・博物館等関係機関と連携した年間事業数	7件	15 件	
②図書館ボランティア研修会等の年間実施回数	25 回	19 回	

成果・効果

- ・学校への図書貸出について学校司書との連絡を密にし、学校のニーズに的確に応えたことに より貸出の増につなげることができた。
- ・児童生徒の作品展示など学校との連携を積極的に行い、子どもたちが成果を発表し保護者等 が見る機会を提供することができた。
- ・公民館や郷土博物館と連携した取組を推進し、事業を充実させることができた。
- ・図書館ボランティアや社会教育推進員との協働により、図書館の運営や読書普及事業の内容を充実させることができた。特におはなし会についてはボランティア養成講座中級編を開催し、受講者を素話のできる「おはなし会ボランティア」として養成することができた。
- ・図書館ホームページ上で様々なコンテンツを更新・新規作成したほか、メールマガジンだけでなくツイッターも積極的に配信するなど、図書館からの情報発信を充実させることができた。また、市の公式LINEやインスタグラムも活用し幅広く発信した。
- ・WEB上でもアンケートに回答できるようにしたことで、就業している方や子育て中の方など、より幅広い年代の利用者から意見を聞くことができたほか、図書館を利用したことのない方や、ここ数年利用していない方も意見を聞く機会つくることができた。

課題

・「図書館の利用に関するアンケート」では、公民館図書室に望むこととして、家や職場の近くで気軽に利用できるという回答に次いで、公民館に来たついでに利用できるという回答が多い。公民館を利用する方の多くは講座への参加やサークル活動であることから、公民館利用者の図書室利用を促進するためにも公民館事業との連携を図る必要がある。

今後の対応

・公民館図書室内に公民館事業の関連図書コーナーをつくるなど、公民館との連携を推進する。

図書館協議会の意見

議題(2) 参考資料① サービス評価指標・参考指標の実績推移【12月末時点】 令和3年度~令和4年度

☆:第4次図書館サービス網計画で新しく追加した指標

						☆: 第4次凶書館サービス網計画で新しく追加した指標	
		市人口	65,075	65,288	65,659		
内容		サービス評価指標	R2年度末	R03.12	R04.12	対応する施策	備者
אניו		ク こへ計画161宗	実績	実績	実績	対心する地名	D⊞ 5⊒
	1	市民一人当たりの所蔵図書 冊数(冊)	10.9	11.0	11.0	(1)①図書館資料の収集	所蔵図書冊数÷人口。年5,000冊の増(10,000冊受入・5,000冊除籍)で算出。
	2	袖ケ浦市関係郷土行政資料 の年間受入冊数(冊/年)	314	222	206	(1)①図書館資料の収集	紙媒体だけでなく、図書館で保存したPDFファイル等の電子資料を含む。
	3	年間個人貸出利用者数(人)	77,507	91,688	95,771	(1)②貸出サービス	個人利用者の延べ貸出利用人数。市外利用者を含 む。
(1)資	4	年間個人貸出資料点数(点)	331,988	389,469	399,612	(1)②貸出サービス	個人利用者の雑誌・視聴覚資料を含む総貸出資料点数。市外利用者を含む。
料及び	⑤	市民一人当たりの年間個人 貸出資料点数(点)	5.1	6.0	6.1	(1)②貸出サービス	年間個人貸出資料点数÷人口。
情報の	6	年間市民新規登録者数(人)	536	888	987	(1)②貸出サービス	市民登録者は市内在住者のみで、在勤・在学者を含まない。
収集、	7	市民登録率(%)	39.6	40.8	40.0	(1)②貸出サービス	市民登録者は市内在住者のみで、在勤・在学者を含まない。 本市では10年間未利用の登録者は除籍している。
提供等	8	年間リクエスト処理件数(件) ☆	52,485	49,243	51,339	(1)③レファレンス・情報提供サービス	未所蔵資料のリクエスト処理件数、所蔵資料の予約 処理件数の合計。
	9	年間レファレンス処理件数 (件)	417	537	699	(1)③レファレンス・情報提供サービス	レフェラルサービス、クイックレファレンスを含む件数。
	10	ーか月当たりのウェブ予約受付件数(件)	3,262.3	4,081.0	4,274.8	(1)③レファレンス・情報提供サービス	日常的な来館が困難な市民でも利用できるサービスの指標。
	11)	来館者満足度(%)	77.7		74.0	(隔年で実施する利用者アンケート調査で設問)	隔年で実施する利用者アンケートで設問する。

内容	容 参考指標		R2年度末	R03.12	R04.12	対応する施策	備考
MA		少行141示	実績	実績	実績	対心する心束	VI⊞ 25
	12	ブックスタートの年間配布率 (%)	33.6	57.7	53.9	(2)①乳幼児と保護者に対 するサービス	配布数÷対象人数(市内在住の4か月児)
2	13	こどもの読書週間記念行事の 参加者数(人)☆	850	861	1,064	(2)①乳幼児と保護者に対するサービス及び②児童・ 青少年に対するサービス	「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、 こどもの読書週間(4月23日~5月12日)の前後に図書 館で実施する啓発事業の参加者数
利用者	14)	おはなし会の年間実施回数 (回)☆	155	226	371	(2)①乳幼児と保護者に対するサービス及び②児童・ 青少年に対するサービス	対象年齢別に実施する図書館内での各種おはなし 会、学校や保育所等への出張おはなし会の実施回数 合計
但に応じ		子ども向けお薦め本リストの 年間発行回数(回)☆	8	7	8	(2)①乳幼児と保護者に対するサービス及び②児童・ 青少年に対するサービス	乳幼児向けから高校生まで年代別におすすめ図書リストを作成し、学校や保育所等へ配布する。
たサー	16	成人向けお薦め本コーナーの 年間企画数(件)☆	14	16	19	(2)③成人に対するサービ ス	特設コーナーや秋のトショロ月間、その他成人向けに 館内で実施したお薦め本コーナーの企画数の合計。
・ビス	17)	大活字本の年間貸出冊数 (冊)	2,553	2,774	3,331	(2)④高齢者に対応する サービス	個人貸出の実績を集計する。
	18	宅配による年間貸出点数資料(点)	167	58	89	(2)⑤図書館利用に障がい のある人に対するサービス	デイジー図書の貸出を含む。
学	19	学校図書館への年間貸出図 書冊数(冊)	2,087	2,239	3,257	(3)①学校との連携	学校貸出利用券による開架資料の貸出を含む。
学 (3)	_	学校との連携による図書館内 掲示や催し物の年間事業数 (回)☆	12	10	8	(3)①学校との連携	児童生徒が選んだおすすめ図書の展示、授業や部活動の成果を発表する場として、図書館を活用してもらう。袖ヶ浦高校とのコラボでのおはなし会を行う。
後会の提供)多様な	21)	公民館・博物館等関係機関と 連携した年間事業数(件)☆	3	7	15	(3)②関係機関との連携	公民館の講座への講師派遣や資料提供、博物館と連携した資料展示等を実施する。市長部局との連携を含む。
Г Т	22	図書館ボランティア研修会等の年間実施回数(回)	13	21	19	(3)③ボランティア活動等 の推進	図書館ボランティア(社会教育推進員を含む)の会議・ 打ち合わせ、新規募集の説明会、養成講座、スキル アップ講座等の実施回数

議題(2)参考資料② 個人貸出等実績推移【12月末時点】 令和2年度~令和4年度

年 度		R2年度	R3年度	R4年度	R4/R2比較	R4/R3比較
(開館日数)		(176日)	(227日)	(228日)	129.5%	100.4%
中	一般書	70,746	95,542	103,344	146.1%	108.2%
	児童書	40,313	73,122	81,349	201.8%	111.3%
	雑 誌	5,871	7,432	8,003	136.3%	107.7%
央	A V	2,440	3,373	3,083	126.4%	91.4%
	合 計	119,370	179,469	195,779	164.0%	109.1%
	利用者	28,062	43,170	47,416	169.0%	109.8%
長	一般書	74,735	95,623	94,251	126.1%	98.6%
	児童書	33,878	52,967	49,016	144.7%	92.5%
	雑 誌	6,434	7,735	7,727	120.1%	99.9%
浦	A V	5,495	5,447	5,169	94.1%	94.9%
	合 計	120,542	161,772	156,163	129.6%	96.5%
	利用者	26,640	36,673	36,280	136.2%	98.9%
平	一般書	13,730	18,690	18,855	137.3%	100.9%
	児童書	5,947	12,061	11,193	188.2%	92.8%
	雑誌	1,363	1,505	1,492	109.5%	99.1%
JII	A V	649	864	978	150.7%	113.2%
	合 計	21,689	33,120	32,518	149.9%	98.2%
	利用者	4,962	7,681	7,860	158.4%	102.3%
根	一般書	5,875	5,953	5,787	98.5%	97.2%
	児童書	3,251	2,018	2,357	72.5%	116.8%
	雑 誌	1,536	1,578	1,432	93.2%	90.7%
形	A V	66	57	44	66.7%	77.2%
	合 計	10,728	9,606	9,620	89.7%	100.1%
	利用者	3,032	<i>2,716</i>	<i>2,755</i>	90.9%	101.4%
平	一般書	3,115	2,733	2,818	90.5%	103.1%
	児童書	1,655	2,201	2,049	123.8%	93.1%
	雑 誌	335	211	264	78.8%	125.1%
	A V	274	357	401	146.4%	112.3%
岡	合 計	5,379	5,502	5,532	102.8%	100.5%
	利用者	1,677	1,448	1,460	87.1%	100.8%
全館	一般書	168,201	218,541	225,055	133.8%	103.0%
	児童書	85,044	142,369	145,964	171.6%	102.5%
	雑 誌	15,539	18,461	18,918	121.7%	102.5%
	A V	8,924	10,098	9,675	108.4%	95.8%
	合 計	277,708	389,469	399,612	143.9%	102.6%
	利用者	64,373	91,688	95,771	148.8%	104.5%
1人当り平均貸出点数		4.3	4.2	4.2	96.7%	98.2%
1日当り平均貸出点数		1,577.9	1,715.7	1,752.7	111.1%	102.2%
1日当り平均利用人数		365.8	403.9	420.0	114.8%	104.0%
新規登録者数(市内)		464	888	987	212.7%	111.1%
レファレンス件数		366	537	699	191.0%	130.2%

議題(3)令和5年度袖ケ浦市立図書館経営方針及び重点施策(案)について

1 経営方針

図書館は、第三期教育ビジョンにおける施策の方向性の一つである「一人ひとりの学びを支える生涯学習の充実」を推進するため、「市民に親しまれる図書館活動の充実」に取り組みます。

そのため、袖ケ浦市第4次図書館サービス網計画に基づき、乳幼児から高齢者まで地域の特性に則した、市民の多種多様・高度化する要求に応えられる図書館サービスの充実を図ります。また、市民一人ひとりの学習課題、生活課題、地域課題の解決を支援します。

2 重点施策

★:新規事業、☆:拡充・一部新規、・:継続、 内は補足説明

(1) 資料及び情報の収集、提供等

市民の多種多様な読書要求に応え、高度化する課題の解決を支援するため、 社会情勢や地域の実情に留意しつつ、「袖ケ浦市立図書館資料収集規程」及び 「袖ケ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、図書館資料の充実を図ります。 資料や情報の提供にあたっては、利便性に配慮し、地域や年代等にかかわりなく広く市民が利用できるよう努めます。また、地域の身近な情報拠点と して、市民の様々な課題の解決を支援します。

・市民に最新の情報を提供するため、開架書架の4%程度を更新できるよう 新刊図書等を収集するとともに、郷土行政資料について寄贈を積極的に呼 びかけます。

情報科学、法律、経済、医学など情報の更新が早い分野や、現在関心の高い時事的なテーマに関する資料を、積極的に更新します。

- ・電子データで公表された行政資料を製本し図書館資料として受け入れるほか、さらに電子資料としても収集します。
- ・幅広い年代に対して図書館の豊富な蔵書を幅広く紹介する様々な企画を推進し、利用の拡大に努めます。また、SDGsの17の目標に対応した資料の収集と提供を推進します。

生活課題やSDGsに対応したテーマによる特設コーナーなどおすすめ図書の館内展示、読書週間やこどもの読書週間にあわせた読書普及事業の企画のほか、広報そでがうら及びホームページやwebOPACのおすすめ図書のページを通じて、幅広い年代に対して図書館の豊富な蔵書を紹介する様々な取組を行います。

・図書館へ来館しなくてもインターネットを通じていつでも利用できる電子 図書館サービスを実施し、市民の読書環境の充実と図書館の利用機会の拡 大を図ります。

学業や仕事などで来館する機会を持つことが難しい10代後半から50 代の方を主な対象として、小説を中心に趣味や仕事の参考になる電子書 籍を提供します。

- ・個人への貸出だけでなく、学校や地域、企業等における読書活動を支援する 団体貸出サービスを推進します。
- ・図書だけでなくインターネットやデータベース等も活用し、個人の調査研究 や行政機関等における情報収集など様々な課題解決を支援するため、資料及 び情報の提供・紹介等を行うレファレンスサービスを推進します。

感染状況を注視しながら、フロアワークでの声掛けや中央図書館児童カウンターへの職員配置の再開を検討します。また、調べ物や読書相談、情報の提供など、レファレンスカウンターで行っているサービスの具体的な内容を市民、行政機関に積極的に周知します。

(2) 利用者に応じたサービス

市民の様々なニーズに対応するため、利用者の特性に応じたきめ細かいサービスを展開します。

①乳幼児と保護者に対するサービス

- ・家庭における読書活動を推進するため、4か月児教室だけでなく、図書館でもブックスタート事業を実施します。
- ☆ブックスタートボランティア養成講座を開催し、ブックスタートボランティ アの増員とブックスタートの更なる充実を図ります。
- ☆乳幼児を対象とする絵本の読み聞かせ、手遊びなど子どもの発達段階に応じたおはなし会を実施し、乳幼児が保護者とともに読書に親しむことのできる環境の充実を図ります。

乳幼児における読書経験はその後の読書習慣の形成のためにも重要であることから、乳幼児を対象にした「えほんのひろば」と「おひざにだっこのおはなし会」を定例的に開催します。

- ・対象年齢別のおすすめ図書リスト発行や児童室でのおすすめ図書の展示等を 通じて、保護者が読書に関心を持ち、親子で読書活動を楽しむための情報提 供を積極的に行います。
- ・幼稚園、保育所や子育て支援施設等への出張おはなし会を行い、乳幼児の読 書活動の支援を行います。

②児童・青少年に対するサービス

・児童・青少年が本に親しみ、読書の楽しさを体験できるように、子どもの発 達段階に応じたおはなし会を実施するとともに、小中学校等への出張おはな し会を実施します。

- 対象年齢別のおすすめ図書リストの発行や児童室、青少年コーナー等でのおすすめ図書の紹介展示を行います。
- ・カウンターで読書相談やレファレンスに応じるほか、学校への団体貸出を通じて児童・生徒の調べ学習や読書活動を支援します。
- ・「こどもの読書週間記念行事」や「夏のトショロ月間」など、子どもが読書 に関心を持つきっかけとなるイベントを開催します。
- ・市内の中学校、高等学校と連携し、中学生や高校生の読書意欲を喚起する取 組を積極的に推進します。
- ・デイジー図書(※1)を活用し、学習障がい、発達障がい、知的障がい等により読みに苦手さのある子どもに対する読書支援を図ります。

図書流通システムを介してデイジー図書を提供する読書支援サービスを整備するとともに、児童発達支援施設、放課後等デイサービスや特別支援学校などの施設を通じてデイジー図書の貸出について周知します。

③成人に対するサービス

・20代から50代の市民が抱える就職・転職、起業、職業能力開発、日常の仕事、また、子育て、教育、若者の自立支援や健康・医療、福祉、法律など様々な課題について、資料の充実と活用を図ります。また、社会の変化や技術の進展に的確に対応し、データベース等の電子資料も活用し、利用者が求める資料や情報の提供を適切に行えるよう努めます。

仕事や生活など、20代から50代にかけてのいわゆる勤労世代が関心の高いテーマや社会的関心の高い時事的なテーマを取り上げ、特設コーナーやホームページ・webOPAC等を通じて紹介します。

★課題解決支援の一環として、勤労世代の関心の高いテーマを取り上げた講座を開催します。

④高齢者に対応するサービス

・介護予防・健康づくりに関する資料、趣味や社会参加などセカンドライフ の充実につながる資料のほか、大活字本や朗読CDなど高齢者でも読書に 親しみやすい資料の充実と活用を図ります。

⑤図書館利用に障がいのある人に対するサービス

・心身の障がいや長期のケガ、病気等により図書館への来館が困難な市民への配送貸出し、活字による読書が困難な市民へのデイジー図書の提供などの障がい者サービスを実施します。

加齢による歩行困難な高齢者など、身体障がい者の認定を受けていない 来館困難者が今後さらに増加することを見込み、配送貸出しに該当する 要件の緩和を検討します。(袖ケ浦市立図書館管理運営規則(※2)参照)

- ・デイジー図書(※1)を活用し、学習障がい、発達障がい、知的障がい等により読みに苦手さのある子どもに対する読書支援を図ります。(再掲)
- ・ホームページからのレファレンスや未所蔵リクエストの申し込みの受付、 電子図書館など、日常的な図書館利用が困難な市民に対してインターネットを活用したサービスの周知に努めます。

⑥多文化サービス

・外国の言語や文化に対する関心を高めるため、各国事情に関する図書や外 国語図書を収集し、その紹介に努めるとともに、外国語図書を活用した取 組を行います。

外国語図書の利用促進のため、外国語図書コーナーの無い図書館及び公 民館図書室において、外国語図書の展示・貸出の機会を設けます。また、 子どもを対象に、外国語絵本を使った読み聞かせなど外国語の図書を活 用した催しを行います。

・図書館で所蔵する多言語対応の電子絵本(※3)を活用し、日本語を母語としない子どもに対する読書支援を図ります。

(3) 多様な学習機会の提供

多様化する課題に的確に対応するため、様々な関係機関と連携して資料や情報、学習機会を提供します。また、市民ボランティアと連携した事業を展開し、事業の充実を図るとともに、住民相互の交流を促進します。

- ・市内の幼稚園、小中学校及び高等学校と連携し、児童生徒のおすすめ図書 や作品を図書館で紹介、展示します。
- ☆公民館、郷土博物館と事業の連携を図り、公民館事業への講師派遣や資料 提供、郷土博物館と連携した資料展示などを行います。

公民館事業との連携をより一層図るため、根形・平岡公民館図書室内に公 民館事業の関連図書コーナーを設置します。

- ☆ブックスタートボランティア養成講座を開催し、ブックスタートボランティアの増員とブックスタートの更なる充実を図ります。(再掲)
- ・様々な機会を通じて、図書館ボランティアの企画事業を推進するとともに、 図書館で活動するサークルに成果発表の場を提供します。
- ・図書館が広く市民に利活用されるために、市及び図書館の広報紙やホームページ、SNS等様々な媒体を活用して、図書館の資料や読書普及事業等について積極的な情報発信を行います。

- ※1 デイジー図書:デイジー(DAISY)は Digital Accessible Information System の略。視覚障がいなどにより活字の読みが困難な人のために製作されるデジタル図書の国際標準規格で、CD-R1枚に約60時間の録音ができるほか、章や見出し、ページごとに聞きたい場所へ移動することができる等の機能がある。音声データと目次・見出し情報等を記録した「音声デイジー」、文字や画像が含まれている「マルチメディアデイジー」などがあり、専用の再生機または再生用ソフトウエアをダウンロードしたパソコンで聞くことができる。
- ※2 袖ケ浦市立図書館管理運営規則
 - 第 14 条 図書館資料の配送貸出しを受けることのできる者は、次に掲げる ものとする。
 - (1) 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者で、障害が1級から4級までに該当するもの。ただし、肢体不自由下肢障害者にあっては1級から6級までのもの
 - (2) その他館長が特に必要と認めた者
- ※3 多言語対応の電子絵本:袖ケ浦市立図書館で提供するのは「多言語絵本の会 RAINBOW」から寄贈された電子図書(CD-R)で、日本語と外国語による音声読み上げ、読んでいるところが画面上でハイライトされるなどデイジー図書と同様の機能があるが、専用の再生ソフトを必要とせずパソコンで視聴できる。

報告事項(1)袖ケ浦市電子図書館の利用状況と選定方針の変更について

袖ケ浦市立図書館では、令和4年8月2日に「袖ケ浦市電子図書館」を開設しました。開設から約5か月経過した、12月末時点での利用状況について報告します。 (登録者数は1月14日時点)

- 1 電子書籍提供タイトル数 234点
- 2 サービス開始日から12月31日までの実質ログイン人数(ID数) 367人
- 3 実質貸出利用人数 155人 ※利用対象:市内在住、在勤、在学者
- **4 延べ貸出点数** 471点
- 5 電子書籍貸出回数 上位5タイトル

NO	コンテンツタイトル	著者名	ジャンル	貸出 回数	紙資料 所蔵
1	ギフト 電子版	原田 マハ	小説•物語	10	0
2	世界の絶景超完全版		地理•地誌•紀行	9	0
2	喋々喃々	小川 糸	小説•物語	9	0
2	夢を叶えるための勉強法	鈴木 光	社会教育	9	×
5	心と暮らしが整う手帳の使い方	mukuri	情報	8	×

6 電子書籍閲覧回数 上位5タイトル

NO	電子書籍タイトル	著者名	ジャンル	閲覧	紙資料
NO	电丁音相グイドル	411	ンヤンル	回数	所蔵
1	喋々喃々	小川 糸	小説•物語	58	\circ
2	ビオレタ	寺地 はるな	小説•物語	57	0
3	あきらめると、うまくいく	藤野 智哉	人生訓·教訓	52	×
4	かがみの孤城	辻村 深月	小説•物語	51	0
5	SNS×メディア PR100 の法則	笹木 郁乃	広告•宣伝	50	×

7 電子図書館の利用傾向

令和4年12月までの利用状況を年代別に見ると、図書館が電子図書館開設前に主な利用者層として想定した10代後半から20代の利用は8.4%であるが、同じ年代の紙の本の利用は4.3%なので、紙の本の場合より利用率は高い。

また、最も利用が多いのは50代で全体の23.1%、20代から50代までの利用は全体の67.1%となっている。紙の本の場合、最も利用の多いのは60代以上(41.1%)で、20代から50代までの利用は全体の46.3%であることから、紙の本と比較して電子書籍はより若い年代に利用されていると言える。

時間別コンテンツ閲覧統計をみると、18時以降24時まで、ログインの回数が少ない時間帯でも1時間当たり70回以上、20時から23時までの時間帯では1時間あたり130回以上と、他の時間帯に比べて閲覧回数が多い。

図書館が電子図書館の開設目的とした、社会人や学生など開館時間中に来館できない人へのサービスとして、一定程度機能していると考えられる。

8 これまでの周知活動

- 8月 袖ケ浦市広報「広報そでがうら」8月号掲載 袖ケ浦市公式LINE配信 図書館ホームページ記事掲載 図書館Twitter 図書館だより
- 9月 ポスター掲示(JR袖ケ浦駅、JR長浦駅、袖ヶ浦高等学校)
- 10月 電子書籍25タイトル追加
- 11月 電子書籍26タイトル追加
- 12月 電子書籍25タイトル追加 袖ケ浦市公式LINE配信 袖ヶ浦高校図書室に図書館だより(電子図書館記事含む)掲示

9 今後の予定

- 1月 電子書籍29タイトル追加
- 2月 電子書籍追加タイトル数未定
- ※令和4年度末で290前後のタイトルの電子書籍を提供予定

10 電子書籍(小説)選定方針の変更について

【現在の小説の選定方針】

ライトノベルなどの若者向けの小説及び10代後半から50代くらいの広い世代 に人気のある作家の小説を中心に選定し、提供する。

【変更案】

小説については、10代後半から20代に人気がある、または映像化など知名度の高いライトノベル作品や10代~50代くらいの幅広い年代に人気のある作家の作品、映像化や文学賞を受賞(ノミネートを含む)した知名度の高い作品などを選定し、一般文芸書の比率を増やして提供する。

【変更する理由】

電子図書館開設にあたり、図書館で所蔵していないライトノベルの比率を多くすることで、紙の蔵書との差別化を図るとともに、高校生など若い年代の利用拡大を図ったが、当初の想定ほど利用が伸びていない。市の公式LINE等も活用し周知に努めているが、現状ではあまり効果が上がっていないことから、周知不足以外に電子書籍のコンテンツ不足も要因ではないかと思われる。

8月以降約5ヶ月間の電子書籍の利用状況を見ると、図書館で複本を多数持っていて知名度のある作家の作品は予約が入るくらい貸出されているが、ライトノベルや10代後半から20代向けでも知名度の低い作家の作品は利用が少ない傾向がある。

また、図書館で企画し、学校単位で多数の参加があった「中高生向けイチオシ本の POPを書こう!」で応募された中高生の作品を見ても、ライトノベルを取り上げ たものは少なく、映画化や本屋大賞ノミネート作品など、広く話題になった一般的 な文芸書についてのPOPが多かった。

インターネットの環境があれば、図書館に来館することなく、いつでもどこでも 読書を楽しめる、という電子図書館の特性を活かす趣旨からも、電子図書館で提供 する小説については、読者層が限られるライトノベルの比率を減らし、知名度の高 い一般文芸書をより多く提供することで、10代後半から20代の利用増を目指す とともに、ふだん積極的には読書しないが話題になった本は読んでみたい、という 市民に向けて図書館利用の裾野を広げることとしたい。

年代別男女別分類別 貸出統計(電子書籍)

報告事項(1)参考資料

集計期間:2022年08月02日~2022年12月31日

*************************************	• 2022	+00月02			/] 51 [
大分類	タイ	トル数	年代 性別	~5歳	6~12 歳	13~15 歳	16~18 歳	19~22 歳	23~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80歳~	なし	合計	男女計	貸出 構成	貸出 回転率
0:総記	4	1 70/	男	0	1	0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	0	7	0.1	4 E0/	E0E 00/
U:松記	4	1.7%	女	0	0	0	0	0	1	2	5	6	0	0	0	0	14	21	4.5%	525.0%
1:哲学	4	1.7%	男	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	1	0	0	6	18	3.8%	450.0%
1. 岩子	4	1.770	女	0	0	0	1	0	0	1	4	2	2	2	0	0	12	10	3.0%	450.0%
2:歴史	3	1.3%	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	17	3.6%	566.7%
2. 座义	3	1.5/0	女	0	0	0	0	1	0	2	0	4	3	3	0	0	13	17	3.070	300.770
3:社会	11	4.7%	男	0	0	2	1	2	0	2	1	2	12	2	0	0	24	43	9.1%	390.9%
科学		7.770	女	0	0	0	0	0	0	5	6	4	4	0	0	0	19	40	3.170	030.370
4:自然	8	3.4%	男	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	4	29	6.2%	362.5%
科学	J	0.470	女	0	0	0	0	1	0	6	10	7	1	0	0	0	25	20	0.2/0	
5:技術・工	11	4.7%	男	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	4	29	6.2%	263.6%
学·工業		1.770	女	0	0	0	0	0	0	11	7	5	2	0	0	0	25	20	0.270	200.070
6:産業	8	3.4%	男	1	0	0	0	0	0	2	3	2	4	2	0	0	14	30	6.4%	375.0%
	Ŭ	0.170	女	0	0	0	0	0	0	6	3	4	3	0	0	0	16	00	0.170	070.0%
7:芸術・	10	4.3%	男	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	10	2.1%	100.0%
美術			女	0	0	0	0	2	0	3	2	1	1	0	0	0	9		,	
8:言語	7	3.0%	男	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	2	2	0	8	19	4.0%	271.4%
			女	0	0	0	0	1	1	3	2	2	1	1	0	0	11			
9:文学	166	70.9%	男	3	1	2	2	13	2	18	4	19	35	13	3	0	115	253	53.7%	152.4%
			女	0	0	0	0	2	2	6	39	45	26	14	4	0	138			
K:児童	2	0.9%	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.4%	100.0%
			女	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2			
∧ = 1	004	100.00	男	4	3	4	3	15	2	28	10	29	64	20	5	0	187		100.00	004.00
合計	234	100.0%	女	0	1	0	1	7	4	46	78	80	43	20	4	0	284	471	1 100.0%	201.3%
			合計	4	4	4	4	22	6	74	88	109	107	40	9	0	471			
年代	弋別利用	月率		0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	4.7%	1.3%	15.7%	18.7%	23.1%	22.7%	8.5%	1.9%	0.0%	100.0%			

	年代 性別	~5歳	6~12 歳	13~15 歳	16~18 歳	19~22 歳	23~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80歳~	なし	合計
	男	1	2	3	2	3	1	6	8	6	12	9	2	0	55
実利用者数	女	0	1	0	1	4	2	19	33	22	11	6	1	0	100
	合計	1	3	3	3	7	3	25	41	28	23	15	3	0	155
年代別実利用者率		0.6%	1.9%	1.9%	1.9%	4.5%	1.9%	16.1%	26.5%	18.1%	14.8%	9.7%	1.9%	0.0%	100.0%
年代別平均貸出数		4.0	1.3	1.3	1.3	3.1	2.0	3.0	2.1	3.9	4.7	2.7	3.0	0.0	3.0

コンテンツ閲覧統計

NO	位	コンテンツタイトル	著者名	出版者名	閲覧回数
1	1	喋々喃々(ポプラ文庫)	小川 糸	ポプラ社	58
2	2	ビオレタ	寺地 はるな	ポプラ社	57
3	3	あきらめると、うまくいく	藤野 智哉	ワニブックス	52
4	4	かがみの孤城	辻村 深月	ポプラ社	51
5	5	SNS×メディアPR100の法則	笹木 郁乃	日本能率協会マネジメントセンター	50
6	6	仕事ができる人の鬼インプット 電子書籍版	間川 清	三笠書房	46
7	7	世界の絶景超完全版	_	JTBパブリッシング	42
8	7	鍵のない夢を見る	辻村 深月	文藝春秋	42
9	8	食堂かたつむり (ポプラ文庫)	小川 糸	ポプラ社	41
10	9	わたしの美しい庭	凪良 ゆう	ポプラ社	39
11	10	夢を叶えるための勉強法	鈴木 光	KADOKAWA	37
12	11)	40歳でGAFAの部長に転職した僕が20代で学んだ思考法	寺澤 伸洋	KADOKAWA	36
13	12	悪役令嬢の兄に転生しました【電子書籍限定書き下ろしSS付き】	内河 弘児	TOブックス	35

コンテンツ貸出統計

NO	位	コンテンツタイトル	著者名	出版者名	貸出回数
1	1	ギフト 電子版	原田 マハ	イースト・プレス	10
2	2	世界の絶景超完全版	_	JTBパブリッシング	9
3	2	喋々喃々(ポプラ文庫)	小川 糸	ポプラ社	9
4	2	夢を叶えるための勉強法	鈴木 光	KADOKAWA	9
5	3	心と暮らしが整う手帳の使い方BOOK	mukuri	KADOKAWA	8
6	4	かがみの孤城	辻村 深月	ポプラ社	7
7	4	ほったらかしで3000万円貯める!お金と投資の超入門	坂本 綾子	日本文芸社	7
8	4	ビジネスパーソンのための折れないメンタルのつくり方	相場 聖	ディスカヴァー・トゥエンティワン	7
9	4	庭を彩る宿根草図鑑	渡辺 均(監修)	新星出版社	7
10	4	鍵のない夢を見る	辻村 深月	文藝春秋	7
11	5	40歳でGAFAの部長に転職した僕が20代で学んだ思考法	寺澤 伸洋	KADOKAWA	6
12	5	あきらめると、うまくいく	藤野 智哉	ワニブックス	6
13	5	あやかし長屋の猫とごはん	須垣 りつ	二見書房	6
14	5	ゆるスクワットの教科書(主婦の友社生活シリーズ)	小山 勝弘	主婦の友社	6
15	5	スマホで投資はじめよう! 電子版 (マイナビムック)	—	マイナビ出版	6
16	5	ビオレタ	寺地 はるな	ポプラ社	6
17	5	フライパンひとつで!のっけ弁当	エダジュン	学研	6
18	5	仕事ができる人の鬼インプット 電子書籍版	間川 清	三笠書房	6
19	5	心がラクになる思考法	細野 正人	ポプラ社	6
20	5	異世界薬局 1 (MFブックス)	高山 理図	KADOKAWA	6
21	⑤	食堂かたつむり(ポプラ文庫)	小川 糸	ポプラ社	6

報告事項(2)令和4年度秋のトショロ月間の実施結果について

秋のトショロ月間「読書の秋!そうだ、図書館へ行こう!」

秋の読書週間(10月27日から11月9日)を含む1か月間にわたって市内の図書館・公民館図書室で開催する「秋のトショロ月間」は、平成26年度より開始した事業です。個人で楽しめる参加型・投稿型の企画を全館で行ったほか、集会事業は予約制にするなど、新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じて実施しました。

大人向けには、古典文学や子どもの読書、関心の高い生活課題などテーマの異なる3種類の講座を開催したほか、おすすめの本を紹介する企画や趣向を凝らした映画会など、読書や文化に触れるイベントを実施しました。

子ども向けにも、「本のおみくじ」や「青空かみしばい劇場」など読書に興味をもっても らえるイベントを実施しました。

また、今年は、図書館のイメージキャラクタートショロが誕生してから30年の節目の年であることから、トショロを題材にした催しも行いました。

その他にも市内小中高等学校と連携した作品展示や、図書館で活動するサークルの発表等を行い、市民と図書館をつなげる事業となっています。

開催期間:10月22日(土)~11月20日(日)参加人数合計 2,432名 (令和3年度の参加人数:1,054名)

1. 参加企画

① [会場] 全館・全図書室

日時	事業名	内容	参加人数
10月22日(土)~	~トショロ 30 周	図書館のイメージキャラクタ	中央 275 人
11月20日(日)	記念イベント~	ー「トショロ」のイラストを自	長浦 192 人
	いろんなトショ	由に書いてもらい、館内に掲示	平川 22 人
	口を描いてみよ	する。	根形 15 人
	う!		平岡 28 人
			計 532 人
10月22日(土)~	秋の読書マラソ	目標値の 30 冊を目指し、本を	
11月20日(日)	ン大会	借りてもらう。期間内に借りた	
		冊数に応じて、全体および年代	
		別の順位が確認できる。	

図書館のイメージキャラクター「トショロ」の 30 周年を記念し、「トショロ」のイラストを自由に書いてもらい、各館に掲示するイベントを実施しました。各館とも楽しそうにイラストを描く子ども達の姿が見受けられ、様々なトショロのイラストがたくさん掲示されました。

秋の読書マラソン大会では、昨年度に引き続き図書館でシステムに目標値を 10 冊、20 冊、30 冊と3段階設定し、期間中に借りた資料の冊数で順位がでるイベントを行いました。 結果はWebOPAC (インターネット上の蔵書検索システム) やOPAC (図書館内の利用者用蔵書検索端末) のマイページにログインすると確認でき、冊数に準じて金銀銅の

メダルが表示されます。目標値と借りた冊数が見えることが、利用者の「図書館資料を借りる」というモチベーションに繋がっているようで、この期間に積極的に本を借りる方も見受けられました。

[会場] 平川図書館·根形公民館図書室·平岡公民館図書室

日時	事業名	内容	参加人数
10月22日(土)~	本のおみくじ	ガチャガチャをまわしておみく	平川 94 人
11月20日(日)		じを引き、運勢やおすすめの絵本	根形 91 人
		を占う。	平岡 92 人
			計 277 人

0歳から2歳用と、3歳からの子ども用の2種類のおみくじを実施しました。運勢とそれに関連するおすすめ絵本を表紙画像入りで紹介したカプセルを用意し、入口付近に設置した手製のガチャガチャやくじびきで、来館した子どもに引いてもらいました。

字が読めない子どもからも、おすすめの絵本の表紙画像を見て「この本を借りたい」という反応が得られたほか、「おみくじですすめられた絵本をすぐに出してもらえてうれしかった」との声が聞かれ、期間中繰り返し来館し参加する姿も見られるなど好評でした。

2.集会事業

① [会場] 中央図書館

口	日時	事業名	講師等	参加者数
1	10月7日(金)	文芸講座	青山学院大学文学部	(4回)
	10月14日(金)	「読んで知る『平家物語』	日本文学科准教授	142 名
	10月21日(金)	の表現の世界」	滝澤 みか	
	11月4日(金)			
	14:30~16:00			
2	10月23日(日)	中庭イベント	社会教育推進員	(2回)
	①13:30~14:00	「青空かみしばい劇場」		41 名
	$214:15\sim14:45$			
3	10月23日(日)	中庭イベント	社会教育推進員	(2回)
	①13:30~14:00	「カレンダーを使って封		31 名
	$214:15\sim14:45$	筒づくり~SDG s エコに		
		ついて考えよう~」		
4	11月1日 (火)	おひざにだっこのおはな	職員	(2回)
	$10:30\sim10:50$	し会		20 名
	②11:15~11:35			
5	11月10日(木)	映画鑑賞会	社会教育推進員	26 名
	10:00~12:20	"図書館ミュージカルシ		
		アター"		
			合 計	(11回) 260名

文芸講座は「読んで知る『平家物語』の表現の世界」をテーマに全4回の連続講座として開催しました。定員を40名として、全4回で延べ142名の参加がありました。丁寧な解説と詳細な資料を基にしたご講義をいただき、アンケートでも大変好評でした。

中庭イベントは社会教育推進員による企画で、紙芝居やパネルシアター、手遊びなどを行う「青空かみしばい劇場」と、使用済みカレンダーを使って封筒を作る「カレンダーを使って封筒づくり~SDG s エコについて考えよう~」を行いました。封筒づくりでは、今年度は封筒づくりを応用した「フォトフレーム」も作成できるようにしました。両イベントとも大人も子どもも楽しめるイベントとなりました。

「映画鑑賞会"図書館ミュージカルシアター"」は、ミュージカル作品の「アニー」を 上映しました。当日は社会教育推進員による前説を行い、参加者からは「良いニュースが 無い中、このような楽しいミュージカルを観て、気持ちが上がりました。」などの声があ り好評でした。

② [会場] 長浦おかのうえ図書館

口	日時	事業名	講師等	参加者数				
1	10月25日(火)	講座「相続財産どこからど	千葉県金融広報委員会	56 名				
	$14:00\sim15:45$	こまで?~いざという時	金融広報アドバイザー					
		にあわてないために、知っ	田中 信之					
		ておきたい財産のこと~」						
2	11月3日(木・祝)	大人のためのお話し会	グループサークル	48 名				
	$13:30 \sim 14:30$		むかしむかしの会					
3	11月8日 (火)	子どもの本の講座	公益財団法人東京子ど	59 名				
	$13:30 \sim 15:30$	「お話のたのしさを子ど	も図書館職員					
		もたちに」	内藤 直子					
4	11月19日(土)	楽しきかな、朗読。今、再	グループサークル	32 名				
	$13:30\sim15:30$	び!	朗読サークル『萌』					
	合 計 (4回) 195名							

講座「相続財産どこからどこまで?~いざという時にあわてないために、知っておきたい財産のこと~」は、千葉県金融広報委員会から金融広報アドバイザーを講師として招き、相続のうち、特に財産関係にテーマを絞って講義を行いました。開催1週間前には満席となり、参加者からは、参考になったという多数の声をいただき、有意義な講座となりました。

むかしむかしの会による「大人のためのお話し会」は、なごやかなムードの中で進行し、 今回は学童保育所の子ども達の参加もありました。毎年恒例のイベントとして定着し、大 人から子どもまで幅広い層におはなしに関心を持ってもらえる良い機会になりました。

子どもの本の講座は、「お話のたのしさを子どもたちに」をテーマに、講師の豊かな体験を交えて、お話を聞く楽しさやお話選び、語るポイントなどについてお話しいただきました。アンケートでは「お話のたのしさや奥深さを感じ大変参考になった」との声が多数あり好評でした。

朗読サークル「萌」による「楽しきかな、朗読。今、再び!」は、コロナ禍で3年ぶりの発表会となりましたが、終始落ち着いた雰囲気で、参加者は語り手が紡ぎだす物語の世界に浸っていました。サークルの活動を見学したいという申し出もあり、サークル活動の活性化に繋がりました。

③ [会場] 根形公民館図書室

日時	事業名	講師等	参加者数
11月17日(木)	すきすき絵本タイム	職員、ボランティア	20 名
10:00~12:00			

0歳から6歳の子どもとその保護者を対象に、ふれあい読書コーナーで開催しました。 擬音語が好きな子には擬音語の絵本、動物が好きな子には動物の絵本、好みがわからない 子には様々な種類の絵本、お母さんからのリクエストの絵本など、ボランティアが1組ず つ好きな絵本の読み聞かせを行い、親子ゆっくり過ごしてもらえました。

④ [会場] 平岡公民館図書室

日時	事業名	講師等	参加者数
10月29日(土)	大型絵本の読み聞かせ	職員	44 名
10:00~12:00			

平岡公民館まつりの際に、図書室で実施しました。参加者に好きな大型絵本を選んでもらい、職員が読み聞かせを行いました。0歳~小学生とその保護者など、非常に幅広くたくさんの参加があり、保護者からも読んでほしい大型絵本をリクエストされるなど、大人も子どもも楽しんだ時間となりました。

3. 展示等

① [会場] 中央図書館

口	日時 事業名		内容	展示数
1	10月1日(土)~	奈良輪小学校 2	奈良輪小学校2年生が「生き物ク	40 点
	10月30日(日)	年生「生き物ク	イズ」を作成。クラスごとに展示	(40名)
		イズ」展示		
2	10月1日(土)~ 図書館登録サー		10月1日(土)~10月19日(水)	10 点
	11月29日(火) クルの作品展示		やまゆり俳句会展示	(10名)
			10月20日(木)~11月9日(水)	12 点
			宇麻具多短歌会展示	(5名)
			11月10日(木)~11月29日	20 点
			(火)	(10名)
			短歌そでがうら展示	
3	11月20日(日) おかのうえ人形		人形劇で使用している人形など	21 点
	10:00~15:00 劇団展示~産ま		を展示。人形と一緒に写真を撮る	(52名)
		れも育ちも袖ケ	こともできる。	
		浦の人形劇団で		
		す~		

図書館登録サークルの作品展示には「やまゆり俳句会」、「宇麻具多短歌会」、「短歌そでがうら」の3サークルが参加しました。どのサークルの作品も素晴らしく、たくさんの利用者が足を止めており、今年度は来館者からアンケート用紙に感想も書いてもらいました。また、展示を見て、サークルの活動を見学したいという申し出もあり、サークル活動の活性化に繋がりました。展示付近には、図書館で所蔵している俳句や短歌の本もあわせて展示したところ、貸出につながりました。

おかのうえ人形劇団展示は、コロナ禍で活動が困難な中、「ももたろう」や「長靴をはいたねこ」など、これまでの上演で使った自作の人形等を第1会議室に展示しました。人形と撮影もできることから親子での参加者が多かったですが、大人だけでじっくり人形を眺めていく方もあり、様々な形で楽しんでもらえました。

② [会場] 長浦おかのうえ図書館

日時 事業名		事業名	内容	貸出数等	
	10月22日(土)	図書館で楽しむ	写真集、画集、民族衣装やドレス	173 冊展示	
	~11月20日(日)	日本の美・世界	の本、世界の風景や建築、花の本	うち 145 冊貸出	
		の美	など図書館には様々な「美」が隠	(145名)	
			れている。そんな「美」を感じる		
			本たちを展示・貸出		

今回初めてのテーマでしたが、初の試みとして社会教育推進員にも展示する本を一部推薦してもらいました。貸出数は昨年度(139冊)と同程度ありました。立ち止まって本を見ている利用者の姿も多数見られ、ふだん目立たない場所にある本もカウンター前に設置したことで、多くの人の目に触れることができました。

③ [会場] 平川図書館·根形公民館図書室·平岡公民館図書室

日 時	事 業 名	内 容	貸出数
10月22日(土)	≪大人向け≫本	テーマごとに関連図書3冊を選	平川 48 袋貸出
~11月20日(日)	のおたのしみ袋	んで紙袋に入れて、中身を見ずに	根形 18 袋貸出
		借りてもらう。	平岡 14 袋貸出
			計80袋貸出
			<240 冊貸出>
			(80 名)

秋のトショロ月間終了時にはすべての袋が貸し出され、特に平川図書館は貸出が多く、 好評でした。おたのしみ袋の中の本は貸出館以外に所蔵されている本から選定しているため、ふだん利用している館以外の本が入っているので毎年楽しみにしているという声もありました。

④ [会場] 中央図書館・長浦おかのうえ図書館・平川図書館・根形公民館図書室

日時	事業名	内容	展示数
【募集期間】	イチオシ本の	中学生、高校生が作成した「イチ	536 点
9月15日(木)~	POPを書こう!	オシ本のPOP」展示	(536名)
11月20日(日)			
【展示期間】			
10月22日(土)~			
12月25日(日)			

中学生・高校生を対象に、おすすめ本のPOPを書いて図書館に提出するとオリジナルトショロポストカードがもらえるというイベントを実施しました。 2年目となる今回は、昭和中学校(150点)、長浦中学校(7点)、根形中学校(30点)、平川中学校(13点)、袖ヶ浦高等学校(334点)から力のこもった作品が多数集まり、大変華やかな展示になりました。

参加者からは「POPがハガキサイズなので取り組みやすく、やりがいがあった」、「8 種類あるトショロポストカードを楽しく選んだ」などの声がありました。中高生の読書や 図書館来館の契機を創出し、同世代が読む本を知ることで読みたい本の幅が広がる有意義 なイベントとなりました。

5. 映画会

[会場] 中央図書館・長浦おかのうえ図書館・平川図書館

会場	上映日	上映作品	参加人数
平川図書館	10月27日(木)	秋の名画鑑賞会"映画で考える平和"	20 名
	$10:00\sim11:50$	「千の風になって」	
長浦おかの	10月30日(日)	子ども映画会	26 名
うえ図書館	$11:10\sim11:35$	「さる・るるる ほか2話」	
	11月9日 (水)	秋の名画鑑賞会"映画で考える平和"	96 名
	$10:00\sim11:50$	「ひまわり」	
中央図書館	11月17日(木)	秋の名画鑑賞会"映画で考える平和"	22 名
	$10:00\sim11:15$	「戦艦ポチョムキン」	
	合	計 (4回) 164名

子ども映画会は、絵本でも人気がある「さる・るるる」ほか2話を上映しました。えほんのひろばと併せて開催した相乗効果もあり、盛況でした。

秋の名画鑑賞会は、『映画で考える平和』と題して、平和について考えるきっかけになるような作品を上映しました。上映時には映画会ボランティアがおすすめする今回のテーマに沿った作品を紹介したチラシを配布し、ボランティアが描いた3作品をイメージしたイラストも好評でした。

6. おはなし会・えほんのひろば・図書館でブックスタート [会場] 中央図書館・長浦おかのうえ図書館・平川図書館

会場	期日	事業名	対象	講師等	参加人数
中央図書	11月5日(土)	おはなし会	4歳から	職員、	11名
館	$14:00\sim 14:30$		小学6年生	ボランティア	
	11月15日(火)	図書館でブッ	市内在住の	職員、	12名
	$10:30\sim 12:00$	クスタート	1歳未満の	ボランティア	
			子どもと保		
			護者		
長浦おか	10月30日(日)	えほんのひろ	3歳から	職員、	13名
のうえ図	$10:30\sim 11:00$	ば	小学6年生	ボランティア	
書館	11月20日(日)	おはなし会	4歳から	職員、	6名
	$14:00\sim 14:30$		小学6年生	ボランティア	
平川図書	11月13日(日)	おはなし会		職員、	(2回)
館	①14:00~14:30			ボランティア	20名
	②14:45~15:15				
合			計	(6	6回)62名

おはなし会は、中央図書館、長浦おかのうえ図書館ともに、お話や絵本に聞き入り楽しむ姿が見られました。平川図書館は平川公民館まつりの中で実施したため、特に多くの参加がありました。いずれのおはなし会も感染症対策に留意しながらも楽しい会となりました。

えほんのひろばは、長浦おかのうえ図書館では初めての開催でしたが、和気あいあいと した中で進行し、大変好評でした。

図書館でブックスタートは、ボランティアによる絵本の読み聞かせとブックスタートパックをプレゼントし、ゆったりと楽しいひと時を過ごしてもらえたようでした。